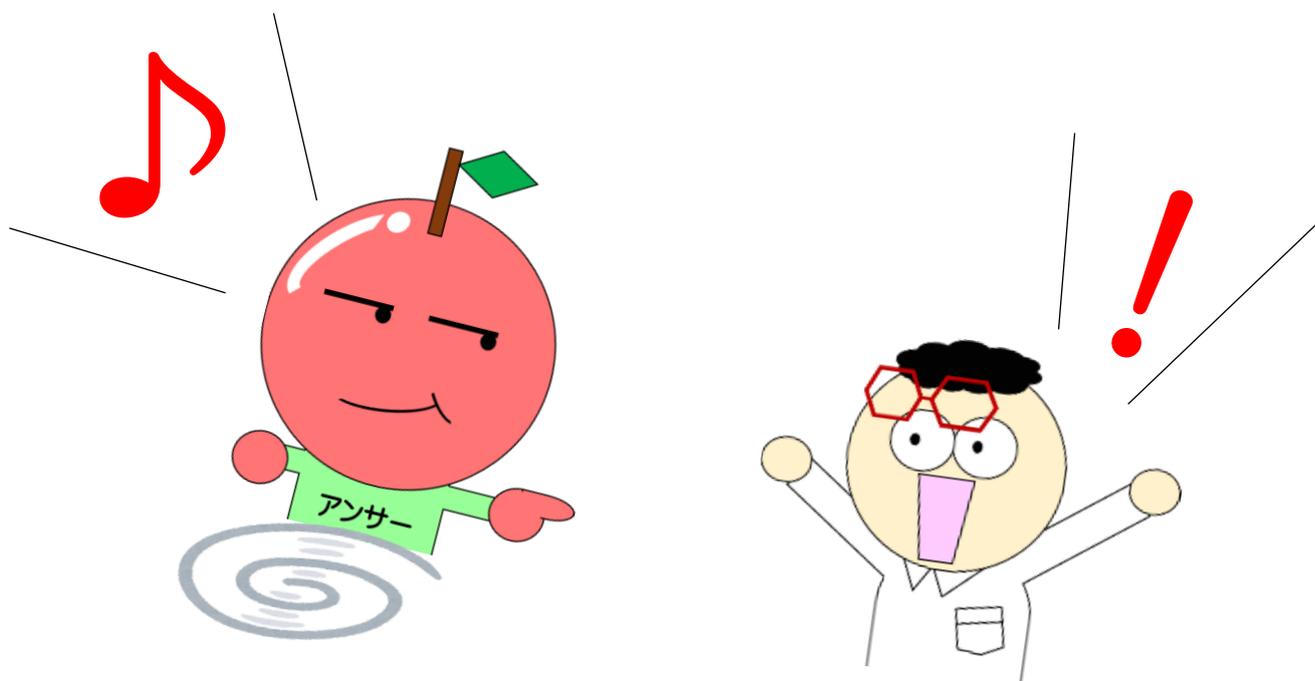


時々サクッと

読み返したくなる!

特別支援学級・通級指導教室の
授業づくりに役立つ

Q&A



青森県総合学校教育センター

特別支援教育課

アンケートへの御協力をお願い



- ▶内容の充実のため、以下の2次元コード又はURLよりアンケートサイトにお進みいただき、皆様の御意見・御感想をお聞かせください。
(※ Internet Explorer 以外のブラウザを御利用ください。)



URL <https://forms.gle/Y3QJH5htT5pitWMc6>

はじめに

令和2年5月、青森県総合学校教育センター特別支援教育課は、調査研究の成果として「青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査報告書」をまとめ、当センターのWebページに掲載しました。本調査を通して、青森県内小・中学校の特別支援教育担当教員の現状に迫り、担当教員が困っていること（課題意識）を整理することができました。そして、担当教員が抱えている困難の軽減や課題解決に資する資料の作成に着手しました。それが、本冊子「『時々サクッと読み返したくなる！』特別支援学級・通級指導教室の授業づくりに役立つQ&A」（以下、「Q&A」という。）です。

令和3年4月から、おおよそ1週間に1回のペースで、Qを1問ずつWebページにアップしてきました。有り難いことに、Webページへのアクセス数は増え続け、本稿を執筆している令和4年1月19日現在、総アクセス数が7,500件に迫っています。この間、研修講座で講義資料として活用したり、御一読いただいた受講者の皆さんにアンケートを実施したりして、学校現場の声を踏まえた修正を行ってきました。Q&Aが、県内小・中学校の特別支援教育担当教員に広く活用され、特別支援学級や通級指導教室の授業づくりに寄与することを願っております。

最後になりましたが、Q&Aの作成に当たって、御助言をいただきました弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 氏はじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年1月

青森県総合学校教育センター

特別支援教育課 課長 矢野 久光

目次

※各項目をクリックすると当該のページに移動します。

はじめに2

Q&A について5

教科指導

Q1. 教科の授業で、複数の学年の子供に対応するためにはどうしたらよいのですか？ 7

Q2. 特別支援学級における教科の授業は、教科書を使わずにプリント学習でよいのですか？9

Q3. 各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。 11

Q4. 生活単元学習では、学習活動がマンネリ化しがちです…。 13

Q5. 生活単元学習で行事単元を計画しているのですが、どのような学習活動がよいのか分かりません。 15

Q6. 学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。どんなことに気を付ければよいのですか？ 17

Q7. 交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？ 19

Q8. 交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？ .21

Q9. 交流学級でのテスト実施時における配慮について、どう考えればよいのですか？23

自立活動の指導

Q10. 自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？25

Q11. 自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？ ...27

Q12. 「明日の自立活動の授業、どうしよう…」という日々です。計画的に指導するにはどうしたらよいのですか？ 29

Q13. 子供の苦手な活動に取り組むとき、参加意欲を高めるためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか？ 31

Q14. 「自己理解」の力を育てたいのですが、どのような指導をすればよいのでしょうか。 33

Q15. 自立活動の指導と教科指導は、どのように関連しているのですか？ 35

Q16. 自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいのか分かりません。37

子供とのかかわり方

- Q17. 教室の整理、机の配置等、子供が集中しやすい環境の作り方が分かりません。コツが知りたいです。 39
- Q18. 子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。 41
- Q19. 子供になかなか指示がとおりません。コツはありますか？ 43
- Q20. どうしても子供に援助し過ぎてしまいます…。 45
- Q21. 子供をほめることを普段から意識していますが、どうもうまく伝わっていない気がします。 47
- Q22. 子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいのですか？ 49

個別の指導計画

- Q23. 個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…。 51
- Q24. 発達検査や知能検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？ 53
- Q25. 個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。 55
- Q26. どのような指導・支援の手立てが効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？ 57
- Q27. 個別の指導計画はいつ評価すればよいのですか？ 59
- Q28. 個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。 61
- Q29. 個別の指導計画の評価を保護者にどのように説明すればよいのでしょうか？ 63

通級による指導

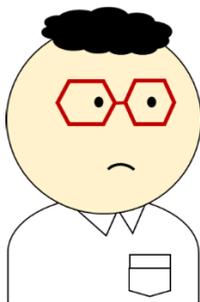
- Q30. 通級指導教室ってどんなところですか？ 65
- Q31. 通級指導教室のこと、周りの子供たちにどうやって説明すればよいのですか？ 67
- Q32. 通級指導教室での指導を在籍学級でどう生かせばよいのでしょうか？ 69
- Q33. ケース会議を開くことになりました。何を準備すればよいのですか？ 71

Q&A について

1. 主な特徴

- 小・中学校の特別支援学級の担任又は通級指導教室の担当を1～5年経験した教員（以下、「担当教員」という。）を対象として想定し、作成しました。
- 担当教員が様々な困難を抱えている各教科や自立活動の授業づくりに役立つ内容で構成しています。
- 特別支援学級や通級指導教室の子供たちの実態は多様であるため、実践事例ではなく、何度も繰り返し確認する必要がある「基本的な考え方」を示しています。
- 多忙な学校現場において短時間でサクッと読めるよう、情報量を精選しています。
- 最初から順番に読む必要はなく、目次を見て、気になるところから読むことができます。

2. 登場人物



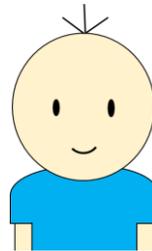
しんまい
新米 先生

- ・ あるときは特別支援学級、あるときは通級指導教室担当教員
- ・ まだ担当して間もないため、日々悩みながら指導している
- ・ 性格：心配性



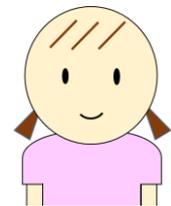
妖精 アンサー

- ・ 特別支援教育のことで深く悩んでいる教員にだけ見える妖精で、助言してくれる
- ・ 性格：せっかち。口癖は「～するべし」



よしき くん

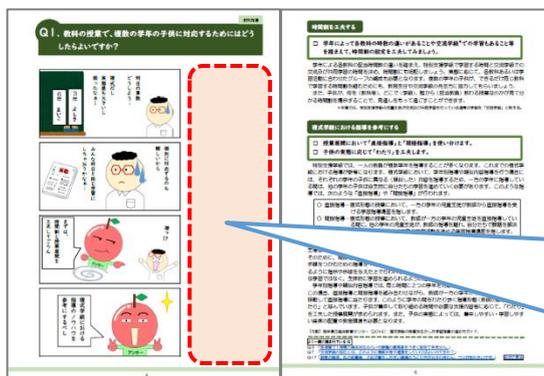
- ・ 新米先生が担当している子供たち
- ・ Qによって、知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級、通級指導教室の子供として登場



まいこ さん

3. Q&A の見方・活用の仕方

- 両面印刷をすると、Q&A を見開きで読むことができます。



左 4コマで概要説明 右 詳しい解説

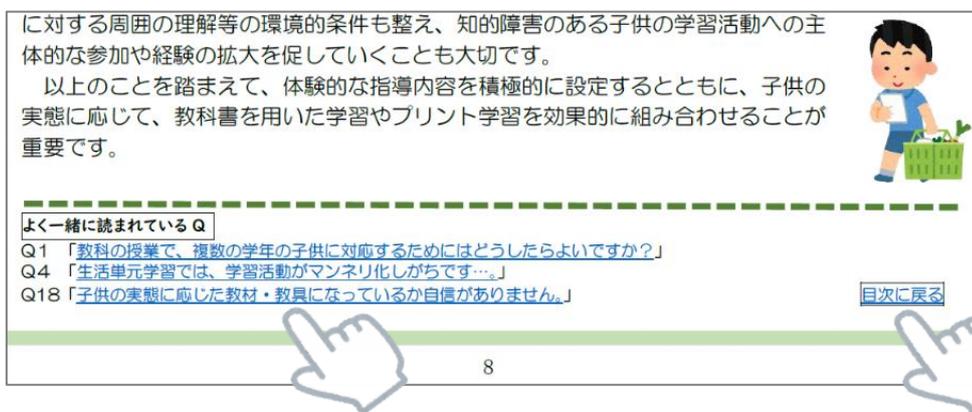
空いているスペースはメモ欄として御活用ください。

例1：困っていることや解決のアイデアを書き出す

例2：Q&A をヒントに実践してみても得られた成果を記録する

- パソコンやタブレット PC 等で閲覧しやすいように工夫しています。

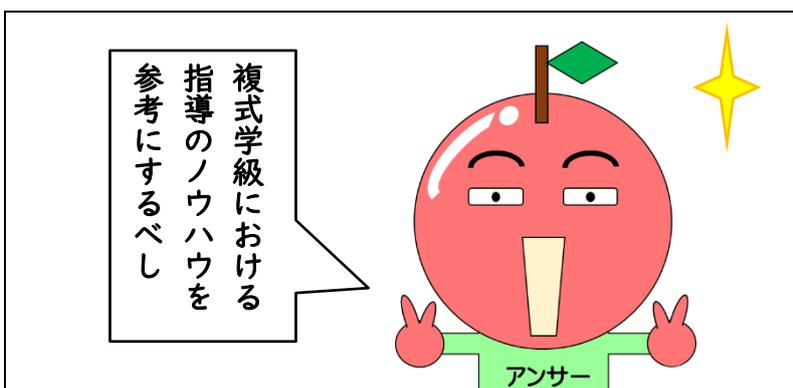
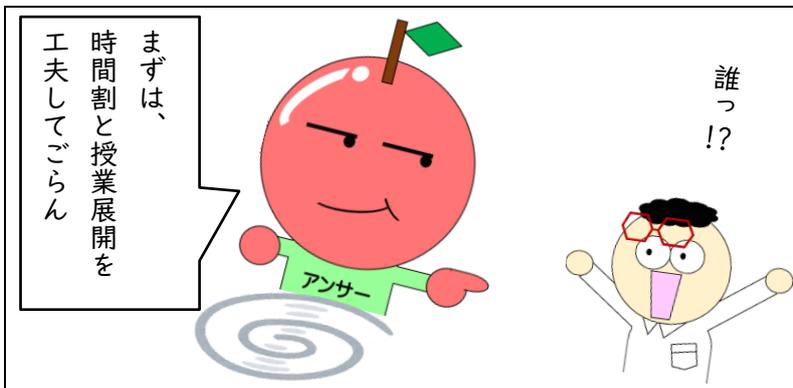
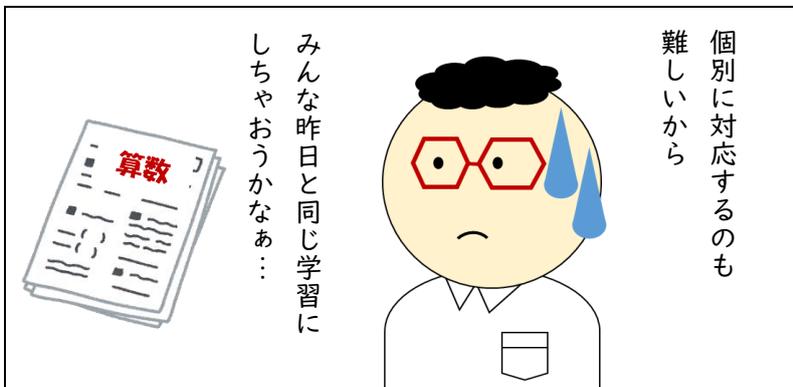
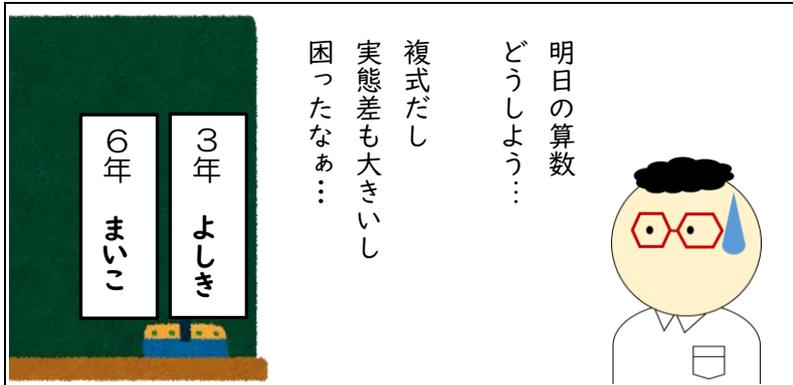
- 目次をクリック（タップ）すると、各ページに移動し、すぐ読むことができます。また、各 Q のページの最後に、「目次に戻る」リンクを設けています。
- 各 Q のページの最後に、「よく一緒に読まれている Q」を掲載しています。これをクリック（タップ）すると、関連する Q のページに移動し、すぐ読むことができます。



- 様々な活用の仕方が考えられます。

- 自己研修の資料
- 授業づくりで悩んだときに読み返す資料
- 普段の指導・支援を見直すための参考資料
- 初めて特別支援学級や通級指導教室を担当する教師への情報提供資料
- 指導・支援について同僚教師と共通理解を図るための資料
- 校内研修の資料

Q1. 教科の授業で、複数の学年の子供に対応するためにはどうしたらよいのですか？



時間割を工夫する

- 学年によって各教科の時数の違いがあることや交流学級*での学習もあること等を踏まえて、時間割の設定を工夫してみましょう。

学年による各教科の配当時間数の違いを踏まえ、特別支援学級で学習する時間と交流学級での交流及び共同学習の時間を決め、時間割にも明記しましょう。実態に応じて、各教科あるいは学習活動に合わせたグループの編成も必要となります。複数の学年の子供が、できるだけ同じ教科で学習する時間割を組むためにも、教務主任や交流学級の先生方に協力してもらいましょう。

また、子供が、何を（教科等）、どこで（学級）、誰から（担当教員）教わる授業なのかが見て分かる時間割を掲示することで、見通しをもって過ごすことができます。

*本稿では、特別支援学級の児童生徒が交流及び共同学習を行っている通常の学級を「交流学級」と称する。

複式学級における指導を参考にする

- 授業展開において「直接指導」と「間接指導」を使い分けます。
- 子供の実態に応じて「わたり」を工夫します。

特別支援学級では、一人の教員が複数学年を指導することが多くなります。これまでの複式学級における指導が参考になります。複式学級において、学年別指導や類似内容指導を行う場合には、それぞれの学年の子供に異なる（類似した）内容を指導するため、一方の学年に指導している間は、他の学年の子供は自主的に自分たちの学習を進めていく必要があります。このような指導では、次のような「直接指導」や「間接指導」が行われます。

- 直接指導…複式形態の授業において、一方の学年の児童生徒が教師から直接指導を受ける学習指導場面を指します。
- 間接指導…複式形態の授業において、教師が一方の学年の児童生徒を直接指導している間に、他の学年の児童生徒が、教師の指導を離れ、自分たちで課題を解決するために個人または集団で学習活動を進める学習指導場面を指します。

複式学級の学習指導では、直接指導の時間的な制約や指導過程の構成上の位置付けから、教師主導型の授業ではなく、子供の主体的な学習活動を目指した授業が展開されるように配慮します。そのために、間接指導前の直接指導では、課題把握や課題解決にかかわる学習技能、学習方法や手順をつかむための指導を十分に行う必要があります。間接指導は、子供のみで学習が進められるように指示や示唆を与えた上で行われる指導です。直接指導の付属的なものとしてのドリル的な学習ではなく、主体的に学習を進められるように指導方法を工夫します。

学年別指導や類似内容指導では、同じ時間に2つの学年を対象にして異なる教材を指導します。この場合、直接指導と間接指導を組み合わせながら、教師が一方の学年から他方の学年へ交互に移動して直接指導に当たります。このように学年の間をわたり歩く指導形態（教師の動き）を「わたり」と呼んでいます。子供が集中して取り組める時間や必要な支援内容等に応じて、「わたり」を工夫した授業展開が求められます。また、子供の実態によっては、集中しやすい・学習しやすい座席の配置や教室環境も必要となります。

【文献】岩手県立総合教育センター（2014）：複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド。

よく一緒に読まれている Q

Q3 「各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。」

Q7 「交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？」

Q17 「教室の整理、机の配置等、子供が集中しやすい環境の作り方が分かりません。コツが知りたいです。」

[目次に戻る](#)

Q2. 特別支援学級における教科の授業は、教科書を使わずにプリント学習でよいのですか？

※ある知的障害特別支援学級にて

1	国語
2	算数
3	自立
4	音楽
	給食
5	体育

*月*日*曜日



二時間目の算数では、
よしくんとまいごさんは
教科書を使った学習が難し
いんだよなあ…



今日もプリント学習に
しちやおうかなあ

でも、また二人から
「いつも同じ
プリントだね。」
とか言われちゃうかも…




プリント学習は
あくまでも選択肢の
一つだからね



「学びの履歴」を
把握した上で、

体験的な指導内容の
設定を検討するべし

「学びの履歴」を確認する

□ 前年度の指導計画を見て、「何を」「どこまで」学習してきたのか確認しましょう。

子供の知的障害の状態、入学前の生活経験の内容や経験の程度、興味や関心、対人関係の広がりや適応の状態等が一人一人異なっています。これらを考慮しながら、各教科に示された指導目標や指導内容の選定等、指導計画の作成が行われるため、前年度の指導計画を見れば、「何を」「どこまで」学習してきたのかという「学びの履歴」を把握することができます。きっと、各教科において教科書をどのように活用すればよいのかというヒントが得られるはずです。



- 個別の指導計画や年間指導計画、学習プリント等を見て、これまで何を学習してきたのか、どこまでできているか、今、何を学ぶ必要があるのかなどを確認します。
- 今度の計画と必要な指導内容にズレが生じていることに気付いた場合は、再び実態把握を行います。
- 改めて実態把握を行い、指導目標を変更した場合、個別の指導計画も修正します。
- 個別の指導計画（評価含む）を引き継ぐだけでなく、指導記録を残すことで、次年度の担当教員が「学びの履歴」を把握しやすくなります。

体験的な指導内容の設定を検討する

□ 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据えて、実際的な状況下で指導し、子供の成功経験につなげましょう。

知的障害のある子供の学習上の特性としては、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しいことが挙げられます。そのため、実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする継続的、段階的な指導が重要となります。

また、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多いです。そのため、学習の過程では、子供が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、子供の自信や主体的に取り組む意欲を育むことが重要となります。

さらに、抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的です。

これらの教育的対応に加え、教材・教具、補助用具やシグなどを含めた学習環境の効果的な設定をはじめとして、子供へのかかわり方の一貫性や継続性の確保等の教育的対応や在籍する子供に対する周囲の理解等の環境的条件も整え、知的障害のある子供の学習活動への主体的な参加や経験の拡大を促していくことも大切です。

以上のことを踏まえて、体験的な指導内容を積極的に設定するとともに、子供の実態に応じて、教科書を用いた学習やプリント学習を効果的に組み合わせることが重要です。

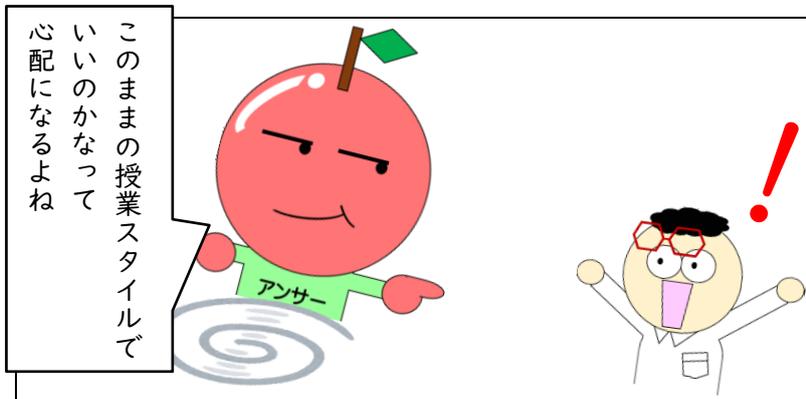
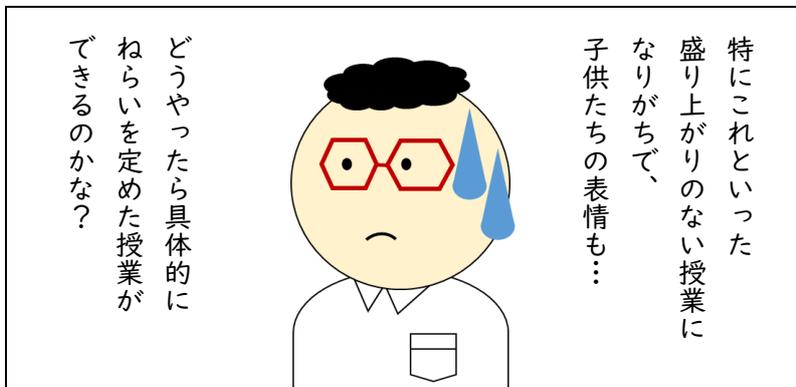
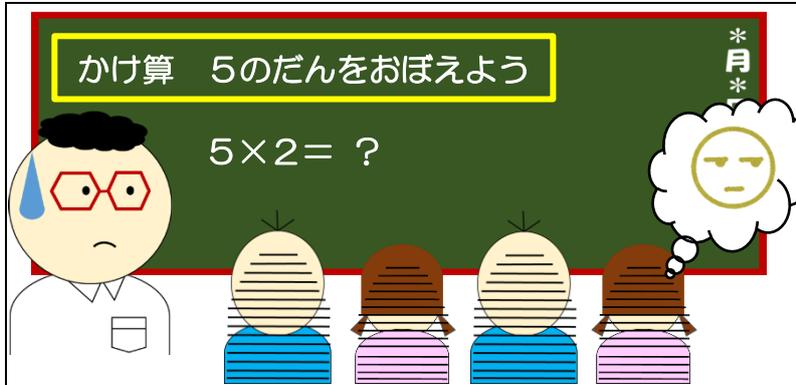


よく一緒に読まれている Q

- Q1 「[教科の授業で、複数の学年の子供に対応するためにはどうしたらよいですか？](#)」
- Q4 「[生活単元学習では、学習活動がマンネリ化しがちです…。](#)」
- Q18 「[子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。](#)」

[目次に戻る](#)

Q3. 各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。



新しい単元に入る前に学習状況を把握する

- 新しい単元に入る前に、関連する学習内容について学習の到達度を把握します。
- 適切に指導内容を精選して、学習のスムーズステップ化を図ります。

年度初めに子供の実態把握を行い、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成しますが、この段階では、各教科における実態を具体的に把握できていない場合があります。そのため、各教科において新しい単元に入る前に、関連する学習内容について「できていること／できそうなこと／まだ難しいこと」を個別に把握しておく（学習の到達度を知る）ことで、個々に的確な目標を立てることができ、具体的な指導内容をその子に合った難易度で計画しやすくなります。難易度は、子供の実態にもよりますが、高すぎず、低すぎず、「ちょっとだけ難しい」程度に設定します。

このような学習のスムーズステップ化のためには、適切に指導内容を精選する必要があります。指導内容の精選の一つとして、子供の障害の状態等に応じて、各教科の基礎的・基本的な事項に重点を置いた指導が挙げられます。ただし、指導の工夫や配慮により履修が可能であるにもかかわらず、障害特性やそれに基づく学習上の困難さを理由に各教科の内容を安易に取り扱わないことは、指導内容の精選とは言えませんので注意しましょう。



毎時間の学習評価を充実させる

- 本時の目標に係る評価基準を設定し、学習評価を充実させることで、子供の実態に合った授業のねらいや課題の難易度を設定できるようになります。

授業における「本時の目標」は、基本的にその時間で達成すべきものです。もし、達成できなかった場合は、「目標が高すぎた」「目標を達成するための手立てや指導が適切ではなかった」というように捉えることができます。つまり、単元の評価規準に照らして、本時の目標に係る評価基準を設定することで、その達成度を具体的に把握することができ、次時におけるねらいや課題の難易度設定の工夫につながられます。

例：本時の目標に係る評価基準の設定（算数）

- ◎（十分満足できる）：既習事項を生かして、自ら***の問題を解くことができる。
- （概ね満足できる）：教師の援助があれば、***の問題を解くことができる。
- △（努力を要する）：既習事項が定着しておらず、教師の援助があっても***の問題を解くことができない。

【文献】茨城県教育研修センター特別支援教育課（2019）：特別支援学級スタート応援ブック【授業づくり編】第3版。

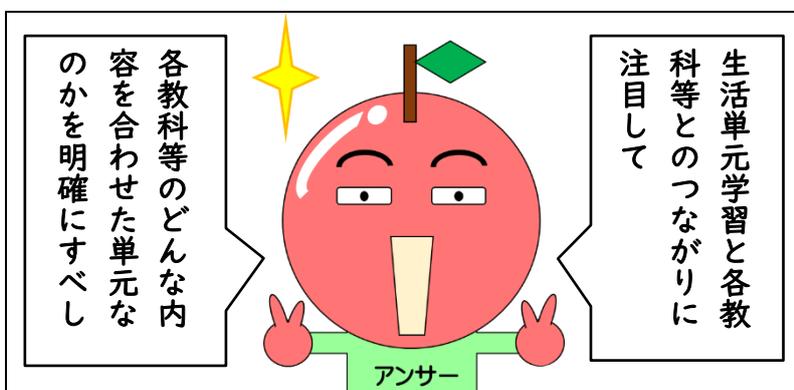
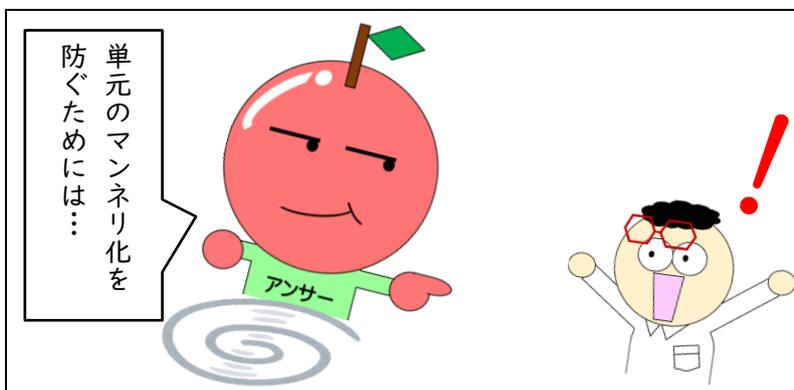
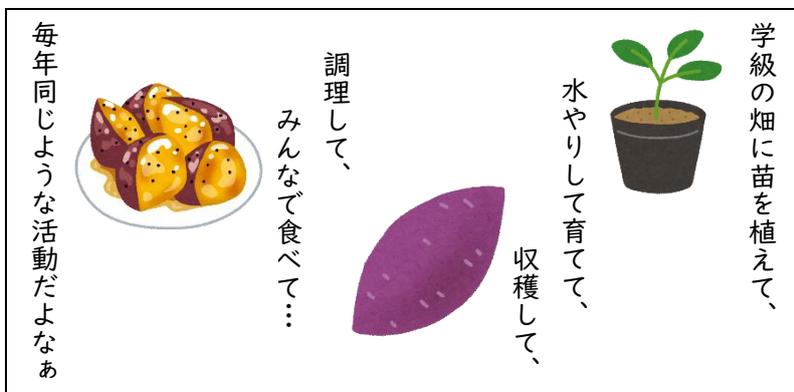
よく一緒に読まれている Q

Q16 「[自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいか分かりません。](#)」

[目次に戻る](#)

Q4. 生活単元学習では、学習活動がマンネリ化しがちです…。

※ある知的障害特別支援学級にて



各教科等のどんな内容を合わせた単元なのかを明確にする

- 生活単元学習は、各教科等を合わせた指導の一つです。
- 各教科等のどんな内容を合わせる単元なのか、単元計画の段階で考えておく必要があります。
- 前年度と同じようなテーマの単元であっても、取り扱う各教科等の内容を工夫することで、マンネリ化を防ぐことができます。

教科等別に指導を行うか、各教科等を合わせた指導（生活単元学習等）を行うかは、あくまでも“指導の形態”の選択の違いです。児童生徒が学習指導要領で示された各教科等の内容を習得し、目標達成を目指す上で、より効果的に学習することができる指導形態を選択します。

4コマの例のように、野菜の栽培をテーマにした単元は、どうしても「活動ありき」になりがちです。そのため、この単元で設定される具体的な指導内容において、どの各教科等のどんな内容の習得を目指すのかを明確にしておく必要があります。

また、各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行う必要があります。

例：単元「さつまいもを育てよう」における学習活動例と各教科等の内容のイメージ

（小学校の知的障害特別支援学級の例）

本単元の学習活動（例）	各教科等の内容
手順に従って苗を植える	・【自立活動】見通しをもって作業する
水やりをしたり、草取りをしたりする	・【生活】野菜の栽培に関心をもつ
成長の様子を観察する	・【国語】成長の様子を文章で表現する ・【図画工作】自然を題材にして身近な材料や用具を使ってかく
さつまいもを収穫する	・【生活】野菜の栽培に関心をもつ ・【自立活動】見通しをもって作業する
収穫したさつまいもを調理する	・【算数】量の単位に着目し、量を比較したり、計量したりする ・【生活】作業分担や役割が分かり、自分から取り組む

※表の「各教科等の内容」はあくまでもイメージです。実際には、編成している教育課程における具体的な各教科の内容で考えます。

【文献】中村大介（2020）：生活単元学習と各教科等のつながり。特別支援教育研究。No.753。2-6。

よく一緒に読まれている Q

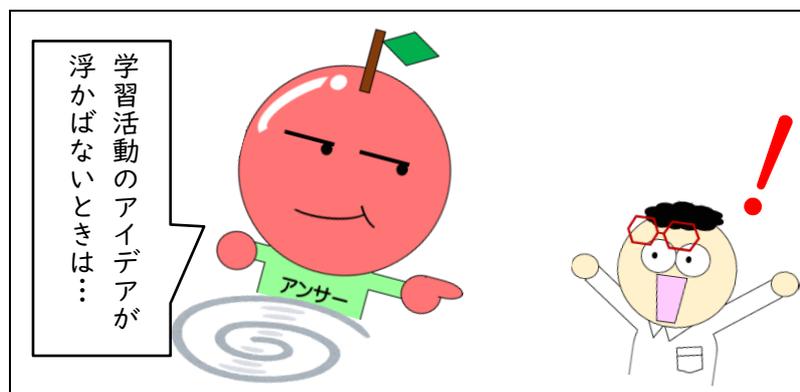
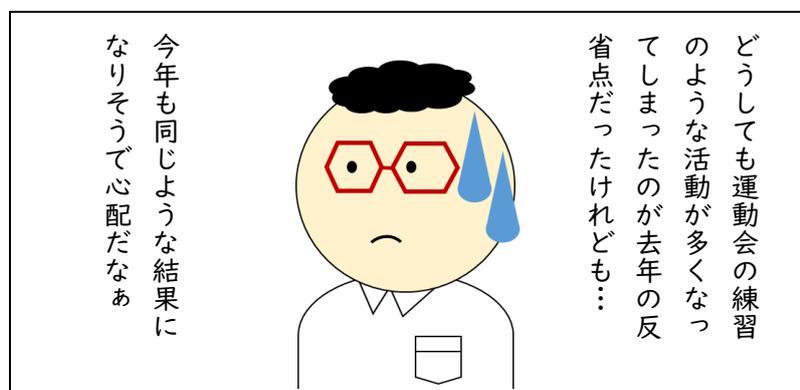
Q3 「各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。」

Q5 「生活単元学習で行事単元を計画しているのですが、どのような学習活動がよいのかわかりません。」

[目次に戻る](#)

Q5. 生活単元学習で行事単元を計画しているのですが、どのような学習活動がよいのか分かりません。

※ある知的障害特別支援学級にて



子供の意見を取り入れる／子供の強みを生かす

- 当該の単元においてどんな活動をするか学級で話し合ってみて、可能な範囲で子供の意見を単元計画に組み込みます。
- 子供の興味・関心や得意なことなど、強みを生かす視点を大事にします。

4コマの例のように、運動会等の行事をテーマにした単元は、どうしても「活動ありき」になりがちです。また、教師主導で進めると活動のバリエーションも限られてしまいます。そこで、単元の初めに、どんな活動をするか学級で話し合ってみましょう。運動会や学習発表会等の学校行事に対して、子供たちは「去年は悔しい思いをしたから、今年はもっと頑張りたい。」など、様々な思いを抱いているはず。その思いを引き出し、可能な範囲で単元計画に組み込むことで、主体的に取り組む姿を実現していくことが重要です。

例：単元「運動会を盛り上げよう」を再考する

①今年度の児童の実態

前年度の運動会についてあまり良い思い出がないことから、4月当初から「運動会に出たくないなあ。」と言う児童がほとんどであった。

②学級担任の願い

本単元での学習活動を通して、運動会への参加意欲を高めたい。そして、主体的に運動会に参加することで、達成感や成就感を感じてほしいと考えた。

③指導内容の検討

初めに、運動会を盛り上げるために、自分たちにできることがないか話し合った。ある児童から「街のイベントみたいに学校の周りに“のぼり”を立てたらいいんじゃない!？」という意見が出され、一同「いいね!」と賛同した。イラストを描くのが得意な児童もいるので、実現可能であると考え、学習活動を以下のように計画した。

本単元の学習活動	各教科等の内容
運動会担当の先生や校長先生に「のぼり制作・設置」の許可をもらいに行く	・【自立活動】他者への依頼の仕方を知る ・【国語】適切な話し方を身に付ける
のぼりのデザインを考える	・【生活】自分が住む町のいろいろな商店の様子に関心を持ち、自分の生活との関連について知る ・【図画工作】様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかく
のぼりを制作する	・【算数】長さの測定と意味について理解する ・【自立活動】手順どおり集中して作業する

※表の「各教科等の内容」はあくまでもイメージです。実際には、編成している教育課程における具体的な各教科の内容で考えます。

【文献】文部科学省（2018）：特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）。

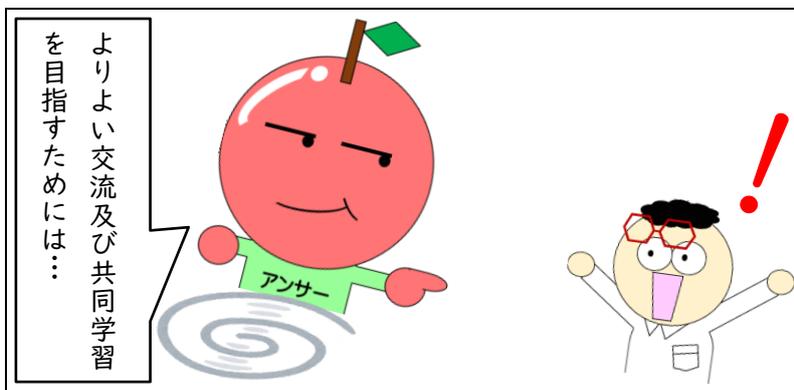
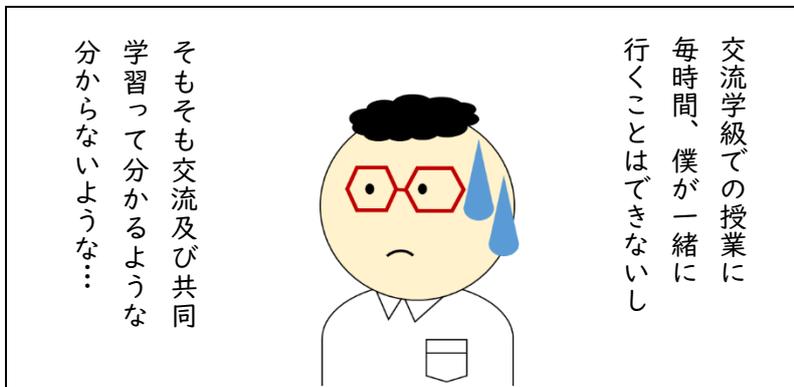
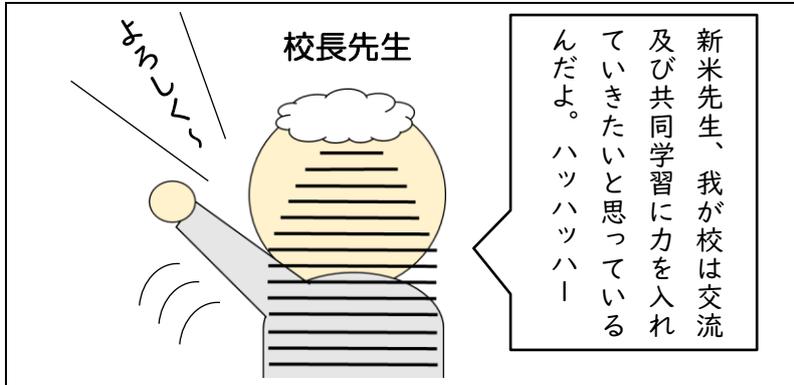
よく一緒に読まれている Q

Q4 「生活単元学習では、学習活動がマンネリ化しがちです…」

Q13 「子供の苦手な活動に取り組むとき、参加意欲を高めるためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)

**Q6. 学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。
どんなことに気を付ければよいのですか？**



子供の実態について相互理解を図る

- 交流学級の担任と交流及び共同学習の意義について共通理解を図ります。
- 交流学級の担任との事前の打合せと事後の振り返りを通して、相互に子供理解を深め、よりよい学習活動や支援の工夫につなげます。

特別支援学級と通常の学級の子供が一緒に学習する機会は、互いの触れ合いを通して、互いを正しく理解し、助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができます。特別支援学級が設置されている学校では、日常の様々な場面で「交流及び共同学習」を行うことが可能であり、互いの教育的ニーズを把握しながら、実りある学びの場となるよう学習活動を設定していくことが大事です。一人一人の実態に合わせながら、その学習活動でのねらいを押さえ、計画的に進めましょう。

一番大切なことは、交流学級の担任（関係者）との事前の打合せと事後の振り返りです。また、教師同士が子供の実態や学級の特性を掴むことから支援の工夫につながり、子供たちが互いを理解するきっかけにもつながります。子供同士の交流に心地よい風を吹かせたいですね。



交流及び共同学習の形態	交流場面の例
①給食、清掃等を交流学級や特別支援学級で共に活動 ②教科学習を交流学級や特別支援学級で共に学習 ③学年や交流学級の行事に学年や学級の一員として参加 ④興味や関心のもてる単元や題材を選んで共に学習 ⑤交流学級の子供たちが特別支援学級の学習に参加 等	朝の会・帰りの会、給食、休み時間、音楽、体育、図画工作、生活、クラブ活動、委員会活動、遠足、校外学習、学習発表会、特別支援学級の生活単元学習、題材によって道徳 等

交流及び共同学習を行う際の配慮点

- 双方の学級の子供が、活動に主体的に取り組めるように授業の展開を工夫する。
- 交流先の子供たちが、障害についての正しい知識と適切な支援や協力の仕方について理解できるよう、丁寧な指導を継続する。
- 特別支援学級の子供は、困ったときに支援を求めたり、自分の気持ちを表現したりすることができるようにする。
- 事故防止に努め、活動が特別支援学級の子供の過度な負担にならないように留意する。

また、配慮に当たっては、一人一人の障害の状態や特性によって違うため、柔軟に対応することも大切です。「同じ時間を同じ場所で過ごすだけの交流」にならないように、日頃から教師間での「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」を心掛け、子供たちにとっての「よりよい交流」を目指しましょう。



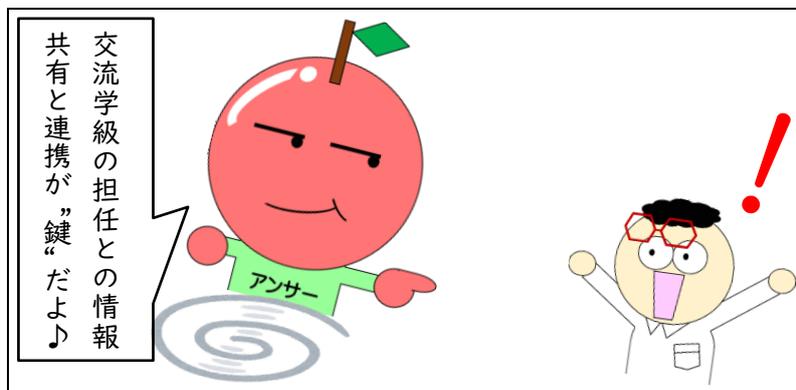
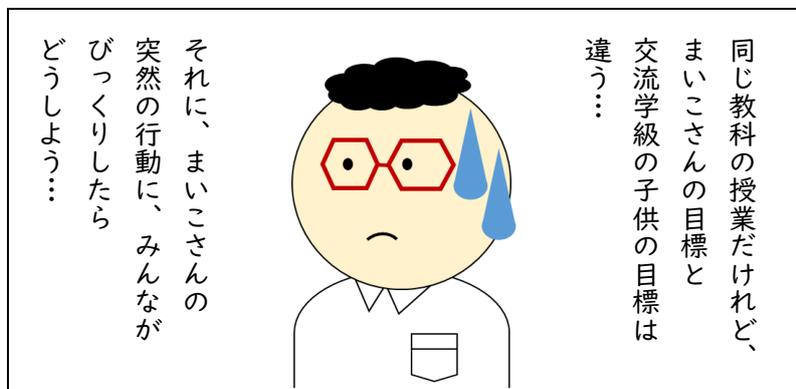
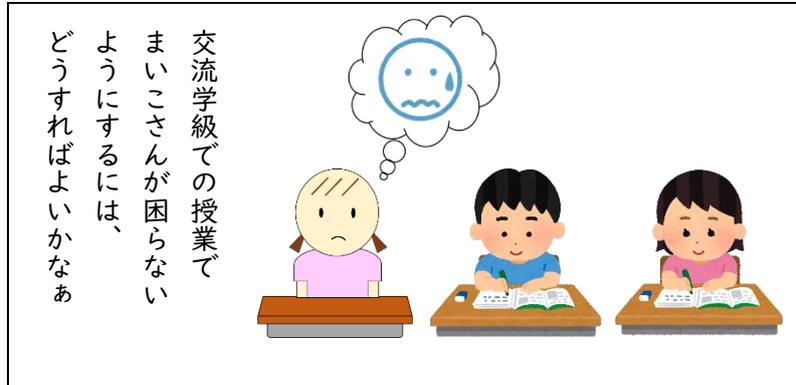
【文献】秋田県総合教育センター（2017）：特別支援学級新任の手引き【改訂版】。
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2009）：友だちをわかろうとすること、自分を知ろうとすること。
 文部科学省（2019）：交流及び共同学習ガイド。

よく一緒に読まれている Q

- Q7 「[交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？](#)」
- Q8 「[交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？](#)」

[目次に戻る](#)

Q7. 交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？



交流及び共同学習のねらいと授業の目標を事前に共有する

- 同じ場所で授業を受けていても、双方の子供にとって、交流及び共同学習のねらいや授業の目標が異なるため、交流学級の担任と事前に共有しておきましょう。

交流及び共同学習では、学校、子供、保護者等の関係者がその意義や目的、ねらいについて十分に理解することが大切です。そのためには、年度の早い段階で、双方の教員が子供の実態を押さえ、双方の交流及び共同学習のねらいや授業の目標を共有して、授業の流れ・展開を計画する必要があります。また、特別支援学級の子供が安心できる学習内容を取り入れ、無理なく取り組めるような工夫（合理的配慮の視点を加えるなど）を行えるように、個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に話し合ってみましょう。

また、行事等の交流では、事前学習で活動の目的や内容等を具体的に子供に伝え、事後学習で「交流学習はどうだったか」「どんな気持ちだったか」「今後はどんな活動をしてみたいか」など、子供と一緒に振り返りを行いましょ。そして、「目標の達成度」を確認して今後の取組に生かしたり、次の交流に対する関心を高めたりすることができるといいですね。子供の変化や成長の様子も交流学級の担任と共有していきましょう。



所属意識をもてるような環境づくりを行う

- 特別支援学級と交流学級の「双方に所属があり、授業（活動）によって行き来する」ことが自然である雰囲気をつくりましょう。

特別支援学級と交流学級の双方に所属している意識が生まれるような「過ごしやすい環境づくり」を目指したいですね。

環境づくりのポイント

- 交流学級の下駄箱に特別支援学級の子供の下駄箱を配置
- 双方に座席とロッカーを準備
- グループ学習時の編成
- 交流学級に係活動、クラブ活動、委員会活動の所属を表示
- 特別支援学級の子供に交流学級の学級だよりなどを配布 等



そして、交流学級でも周りからの刺激が過度になりすぎない工夫や、突発的な出来事に混乱した場合に休憩できる場所が確保できると、子供がより安心して学習できると思います。その他、配慮してほしいことや心配に思っていることなどは、なるべく授業の前（例えば、放課後や朝の打合せ時）に交流学級の担任と話をし、安心した気持ちで子供を送り出しましょう。

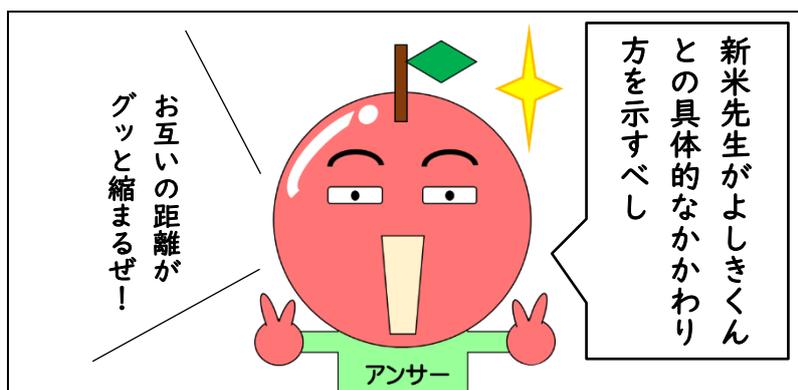
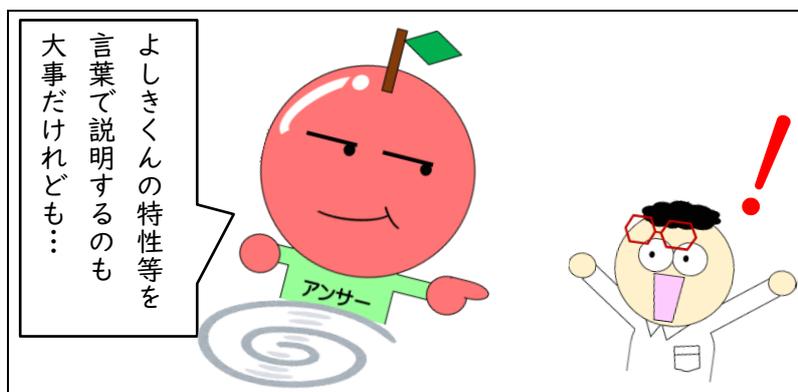
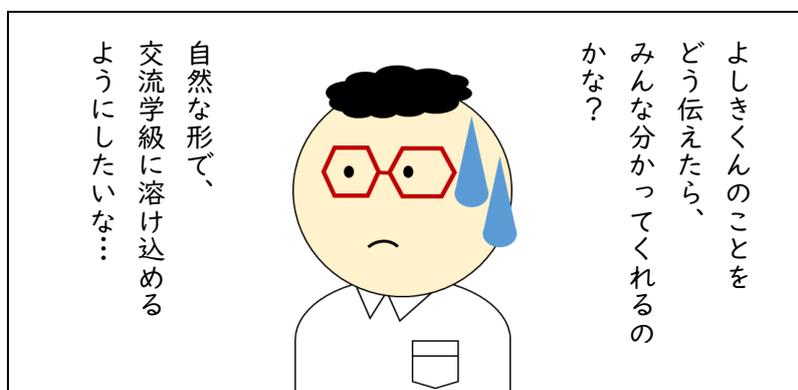
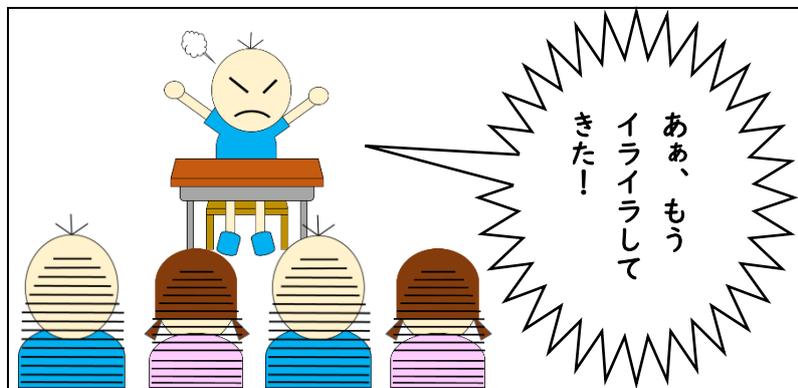
【文献】文部科学省（2019）：交流及び共同学習ガイド。

よく一緒に読まれているQ

- Q6 「学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。どんなことに気を付ければよいのですか？」
- Q8 「交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)

Q8. 交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？



「〇〇障害のある□□さん」を理解してもらおう

- 特別支援学級の子供と一緒に交流学級の子供とかかわり、本人の得意なことや頑張っていることについての情報発信をしてみましょう。

読者の皆様は、交流学級の子供に特別支援学級の子供のことを正しく理解してもらい、自然な雰囲気であらう交流してほしいと願っていることと思います。しかし、特別支援学級に在籍している子供が複数いるため、交流学級での学習活動に毎回付き添うことができず、「どんなふうに過ごしているのだろう？」と心配になることもあるのではないのでしょうか。付き添えるときは、特別支援学級の子供と一緒に交流学級の子供とかかわりながら、本人の「苦手なこと」だけでなく、「得意なこと」や「今、頑張っていること」も伝え、子供同士のかかわりを深めるきっかけづくりに努めましょう。

また、交流学級の担任等にもこのような「子供の強み」や「その子らしさ」を伝えていき、障害特性や苦手なことに偏重した理解にならないよう留意する必要があります。それが、間接的に交流学級の子供の適切な障害理解につながります。



具体的なかかわり方を伝える

- 障害のある子供への適切な支援や協力の仕方について、具体的にどうすればよいかを伝えることで、子供同士の距離がグッと縮まります。

さらに子供同士の距離を縮めるために、お互いが具体的に「こんなときは、どうすればいいのか」を理解する必要があります。交流学級の担任と連携して、その子が苦手さを補うために「どんなサポートが必要なのか」を日頃から交流学級の子供に伝えておきましょう。特別支援学級の担任が、かかわり方のモデルとなるよう、意識的に子供と接することが重要です。

また、特別支援学級の子供は、困ったときや手伝ってほしいときに、周りの友達や教師に的確に伝えられるよう、自立活動の時間における指導等において「伝え方」を身に付けておくことが重要です。

特別支援学級の子供に限らず、交流学級の子供にも「苦手さ」はありますので、自分の気持ちを先生に伝えられるような学級の雰囲気づくりを心掛けたいですね。



- 【文献】 下山直人 編著（2015）：インクルーシブ教育システムにおける特別支援学校の未来～子ども・保護者・地域～、全国心身障害児福祉財団。
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2014）：共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例、ジアース教育新社。

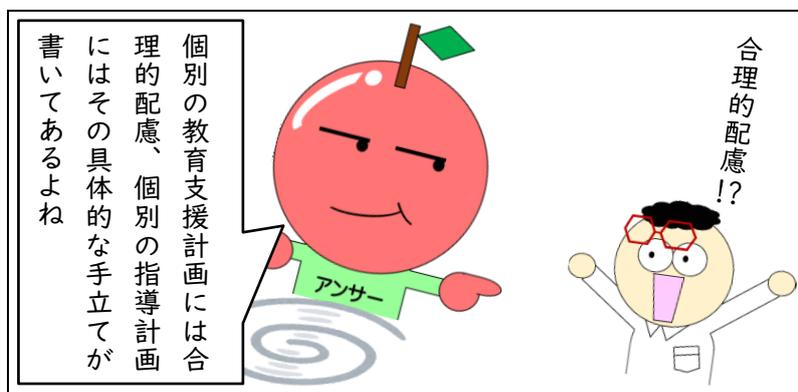
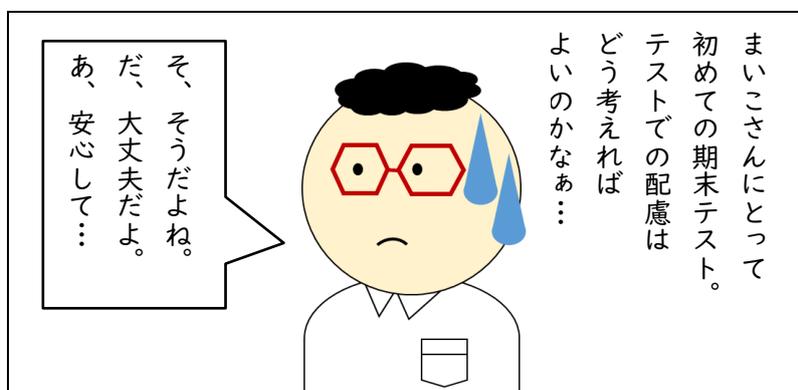
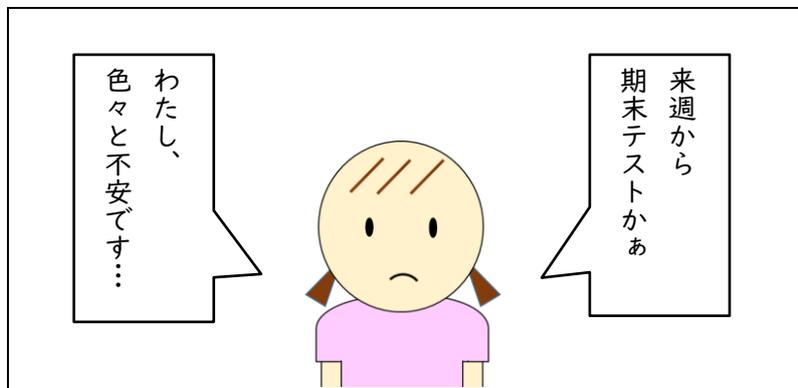
よく一緒に読まれているQ

- Q6 「学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。どんなことに気を付ければよいのですか？」
Q7 「交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？」

[目次に戻る](#)

Q9. 交流学級でのテスト実施時における配慮について、どう考えればよいのですか？

※ある中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級にて



テスト実施時の配慮は「合理的配慮」として考える

- 普段から個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に授業で配慮していることが、テスト時の配慮にもつながります。

期末テスト等の定期考査における配慮を考える際には、普段の授業において、その子供の障害による学習上の困難さに応じて合理的配慮が提供されていることが前提となります。合理的配慮の根拠となるのが、個別の教育支援計画や個別の指導計画です。個別の教育支援計画に記載した合理的配慮について、より具体的な手立てが個別の指導計画に記入されます。これらが、テスト実施時の配慮の根拠となります。以下は、テストにおける配慮の例です。

- 書字に困難さがあるため、ノートは広いマス幅のものを使用している
→テストの解答用紙を拡大して提供する
- 読むことに困難さがあることから、読む箇所を意識させるために、読む部分だけが見える自助具を使っている
→テスト時も自助具を使ってもよいことにする
- 視覚に障害があり、字を読むことに時間がかかるため、普段の授業でも問題文を先生が読み上げている
→別室でテストを行い、問題文は教師が読み上げる



これらの配慮は、子供が自分の力を十分に発揮して、テストの問題を解くために提供されるものです。そのため、周りの子供たちが不公平感をもたないように、保護者の了解を得た上で、日頃から合理的配慮を提供する理由を説明しておくことが大切です。また、自己評価や個人内評価を取り入れるなど、評価方法も工夫しましょう。

本人・保護者との建設的な対話を心掛ける

- 本人や保護者との合理的配慮についての話し合いでは、お互いの意見の相違を調整しながら、お互いが歩み寄ることができるようにしていきましょう。

合理的配慮についての面談は、担任一人ではなく、特別支援教育コーディネーターや特別支援学級の主任等、複数の教員で対応して、丁寧な対話を重ねていきます。ただし、本人や保護者が希望した配慮が、学校で全て提供できるとは限りません。その場合、「優先して提供することが必要な合理的配慮」や「希望された合理的配慮を提供できない場合の代替の配慮」について話し合いを重ねます。また、合理的配慮の決定の判断は、担任が一人で行うのではなく、校内委員会等の組織的な検討の場で判断し、決まったことを本人や保護者に説明します。

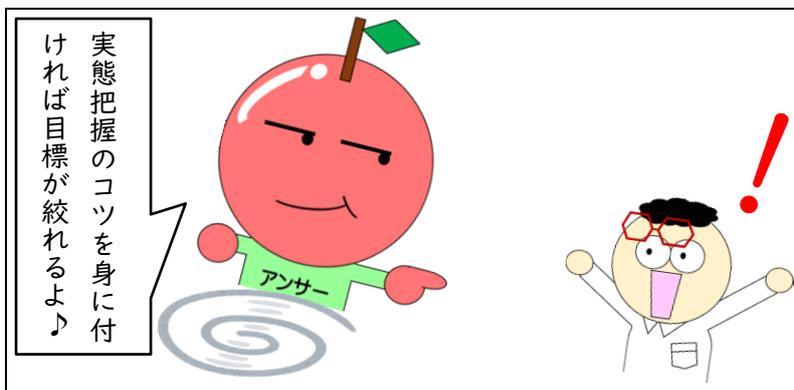
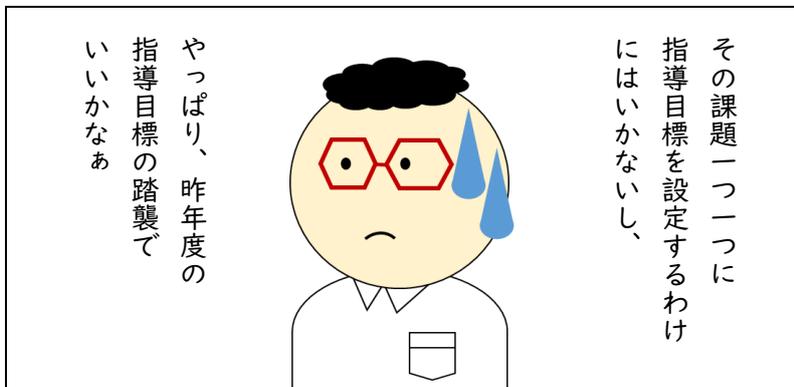
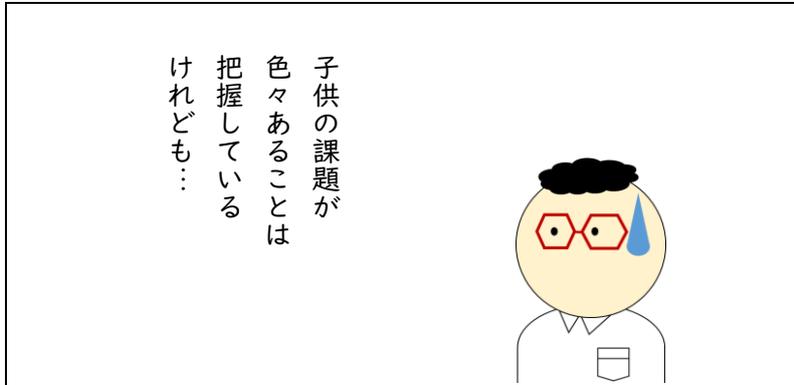
【文献】：熊本県教育委員会（2019）：高等学校における合理的配慮事例集ーインクルーシブ教育の実現に向けてー。文部科学省教育課程課編。中等教育資料。

よく一緒に読まれているQ

Q26「どのような指導・支援の手立てが効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)

Q10. 自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？



指導内容は診断名だけでなく子供の実態から総合的に考える

- 自立活動の内容の6区分 27 項目で中心的な課題を考えてみましょう。
- 中心的な課題を踏まえて、指導目標を見直します。
- 指導目標の達成に必要な区分・項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定します。

自立活動は、個々に異なる、障害による学習上又は生活上の困難（実態）を把握することから指導内容の検討がスタートします。診断名にとらわれず、自立活動の内容の6区分 27 項目で実態を捉え直し、中心的な課題を改めて考えてみます。必要があれば、指導目標を修正します。

自立活動の指導内容は、個々の子供の実態に応じて必要な項目を選定して取り扱うものであり、そのすべてを指導すべきものとして示されているものではありません。学習指導要領に示されている「内容」から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて設定されます。

例：自閉症のある子供

① 中心的な課題

※【 】は6区分 27 項目の内容を指します。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブな感情もネガティブな感情も抑えることができず、すぐに行動にうつしてしまう【心(1)】 ・どの授業にも積極的に取り組もうとする【心(3)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにならないと、かんしゃくを起こしてしまう【人(1)】 			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることが難しい【コ(1)(3)(4)】 ・かんしゃくを起こすと、教師がいくら言葉がけをしても収まらない【コ(2)】

中心的な課題

学習意欲は高いが、思ったことをすぐに行動に移してしまいがちである。

自分の思いや考えを衝動的、あるいはかんしゃくといった行動で表現するため、相手に意図が伝わらずに注意されることが多い。

② 指導目標

長期目標（年間）	自分の思いや考えを相手に正しく伝えるための表現方法を身に付けることで、落ち着いて相手とコミュニケーションをとることができる。
短期目標（学期毎）	支援ツールを用いて、自分の思いや考えを相手に伝えようとするすることができる。

③ 具体的な指導内容

- ・単語カードや絵カード等の支援ツールを用いることで、相手に自分の思いや考えを分かりやすく伝えられることを知る。【人(1)、コ(2)(4)】
- ・発表場面では、ワークシートやメモ帳に一度、自分の伝えたいことを整理してから伝える。【心(1)、コ(4)】

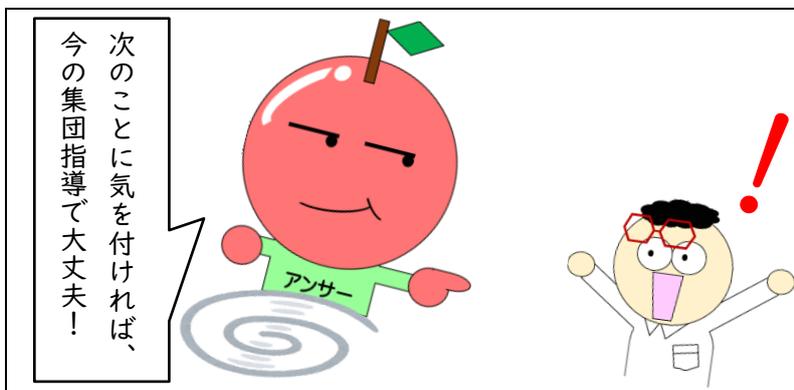
【文献】独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2020）：リーフレット「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！」。

よく一緒に読まれている Q

- Q11 「自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？」
 Q12 「『明日の自立活動の授業、どうしよう…』という日々です。計画的に指導するにはどうしたらよいですか？」
 Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…」

[目次に戻る](#)

Q11. 自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？



同じ題材でも個々に目標を設定する

- 同じ題材で集団指導を行う場合、各自の個別の指導計画に基づいて、個々に目標を設定します。
- 評価の観点や方法も個々に検討します。

個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多いですが、特別支援学級の場合、担任が一人で複数の子供に指導しなければならない状況も少なからずあります。指導目標（ねらい）を達成する上で効果的である場合には、小集団を構成して指導しても問題ありません。ただし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意しましょう。

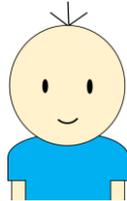
以上のことから、同じ題材で集団指導を行う場合であっても、個々に目標を設定することになります。併せて、子供一人一人の目標の達成状況を把握できるように、個々に評価の観点や方法を検討する必要があります。

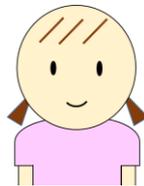
例：小集団でのソーシャルスキルの指導

①本時の目標

相手にとって「気持ちのよいあいさつ」の仕方を知り、実践しようとする態度を身に付ける。

②個別の目標

よしきくん	
	<ul style="list-style-type: none">・少しずつ学級での生活に慣れてきたところ。・自分からあいさつする様子があまり見られない。
目標	教師の手本を見て、「気持ちのよいあいさつ」のロールプレイで実演することができる。

まいこさん	
	<ul style="list-style-type: none">・自分からあいさつできるようになってきた。・相手をあまり見ないであいさつする様子がしばしば見られる。
目標	「気持ちのよいあいさつ」とそうでないあいさつとの違いに気付くことができる。

目標と評価はセットで考えよう♪
ロールプレイで何をどの程度ねらう？
発言の内容で評価する？振り返りシートの記入内容で評価する？



よく一緒に読まれている Q

- Q10 「自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？」
- Q12 「『明日の自立活動の授業、どうしよう…』という日々です。計画的に指導するにはどうしたらよいですか？」
- Q28 「個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…」

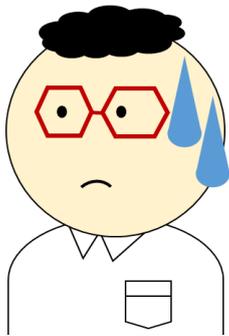
[目次に戻る](#)

Q | 2. 「明日の自立活動の授業、どうしよう…」という日々です。
計画的に指導するにはどうしたらよいのですか？

1	国語	*月曜日*曜日
2	算数	
3	自立	
4	音楽	
5	給食	
	給食	
5	体育	

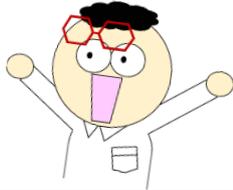
明日の自立活動
どうしよう…
困ったなあ

昨日と同じ活動にしちやおうかなあ



でも、また「飽きた」とか言われちゃうかも…

指導目標…
確認します！



まずは、個別の指導計画の指導目標を確認してごらん



指導目標を具体化するべし



目標達成に向けて活動のバリエーションを

指導目標を具体化する

- (1年間の指導目標しか立てていない場合) 学期間等の短期的な目標も設定してみましょう。

自立活動の指導の効果を高めるためには、学期間等の短期的な指導目標を定める必要があります。目標がより具体的になるので、自立活動の時間における学習活動の内容もイメージしやすくなります。また、計画的な指導にもつながります。

例：自閉症のある子供で、他者とのコミュニケーションを苦手としている。

- 1年間の指導目標
 - 一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話すことができる。
- 1学期の指導目標
 - 日記を参考にしながら、最近の出来事について、いつ、どこで、何をしたかを順番に話すことができる。

目標達成に向けて活動のバリエーションを増やす

- 同じような活動内容を続ける場合、実態に合わせて教材等を替えたり、その時間の目標や支援の手立てを段階的に設定したりしましょう。

自立活動の時間における指導では、「明日も先週と同じ活動内容でいいのかなあ」「そろそろ飽きてきたかなあ」「でも別な良い活動が思い付かないなあ」というように迷う日が少なからずあると思います。焦って、全く別な活動を取り入れても、それが指導目標にあまり関係のない活動であれば本末転倒です。こういうときは、少し落ち着いて、同じような活動内容でよいので、活動の流れや教材に変化を加えたり、本時の目標や指導・支援の手立てを段階的に設定したりすることで、活動のバリエーションを増やしていきましょう。

例：ADHDの子供を対象としたコミュニケーションスキルの指導

- コミュニケーションの場面設定を変えてみる
- ロールプレイをする相手を代えてみる
- 目標とするスキルを増やしてみる
- 教師によるヒントやモデル提示を減らしてみる など

よく一緒に読まれているQ

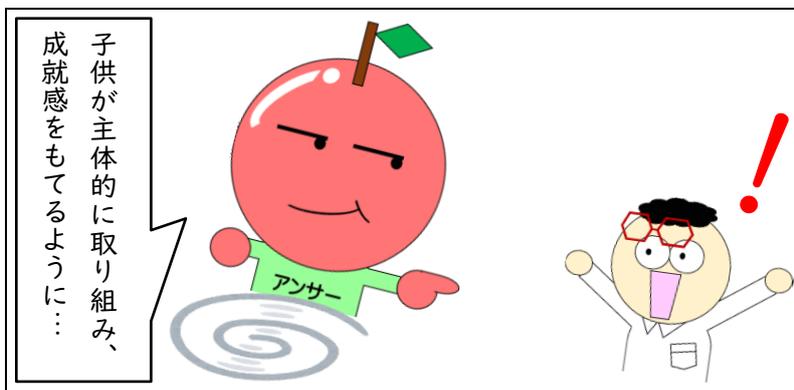
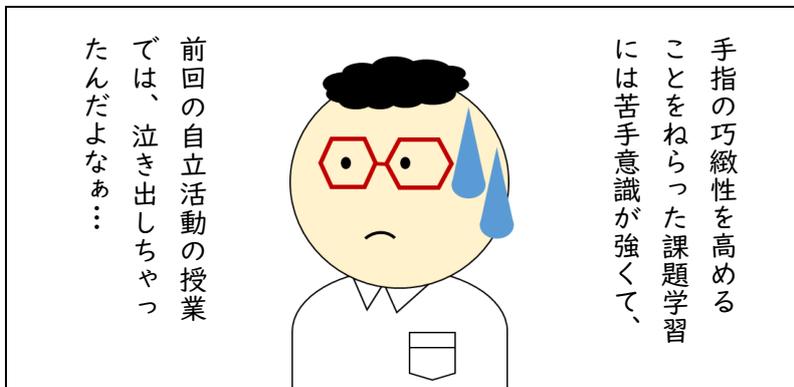
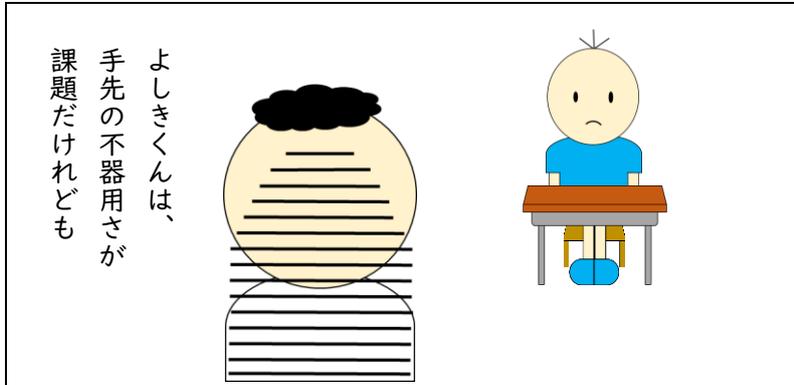
Q10「自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？」

Q11「自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？」

Q18「子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。」

[目次に戻る](#)

Q13. 子供の苦手な活動に取り組むとき、参加意欲を高めるためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか？



「できた」という成功体験の積み重ねを目指して

□ 子供が興味・関心をもって取り組めるような指導内容にしましょう。

例えば、指導の段階を細分化する、興味を引くような教材・教具を準備する、称賛や激励を適宜行うなどの工夫が挙げられます。こうした外的な動機付けから始めて、次第に主体性や意欲を高めるようにすることが重要です。

□ 子供にとって解決可能で、取り組みやすい指導内容にしましょう。

子供にとって余りに課題が容易すぎても進歩は望めないし、難しすぎても意欲を喪失させてしまうこととなります。少し時間をかければできる課題、教師の援助があればできる課題等、難易度を工夫して、課題をやり切って「できた」で終わられるようにします。

□ 子供が、目標を自覚し、意欲的に取り組んだことが成功に結び付いたということを実感できる指導内容にしましょう。

子供が成就感を味わうためには、自分の課題達成の度合いを理解できるようにする必要があります。そのためには、自己評価ができるように課題を細分化し、達成度を分かりやすくすることが大切です。また、わずかな進歩であっても、褒めたり励ましたりすることを忘れないようにしましょう。

自己を肯定的に捉える感情を育てよう

「自己を肯定的に捉える」感情は、自分にもよいところがあると認める感情であり、自己肯定感や自己有能感と言われることもあります。この感情は、一般に、自分のよいところを認められる段階から、自分のよいところも悪いところも含めて自分であることを肯定できる段階に移っていきます。したがって、子供が自己に対してどのような感情を抱いているのかを把握し、成長に即して自己を肯定的に捉える感情を高められるような指導内容を検討することが大切です。

例えば、自立活動の学習に取り組む自分について振り返る機会を適宜設定して、頑張っている自分を確認したり、過去と比較して成長していることを実感できるようにしたりすることが考えられます。

また、子供の意見を取り入れながら自立活動の学習課題を設定することも、障害に対する認識や自分の得意な面及び不得意な面等に対する認識を促すことになり、自己を肯定的に捉える感情を高めることにつながります。

さらに、同じ障害のある年長者がモデルとなって自己を肯定的に捉えていくきっかけになることもあるので、特に中学校段階では先輩の話を聞く機会を設けることも有効な方法の一つと考えられます。



よく一緒に読まれている Q

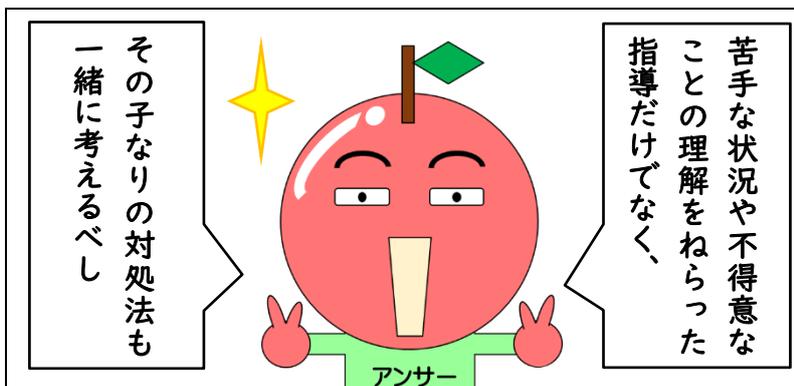
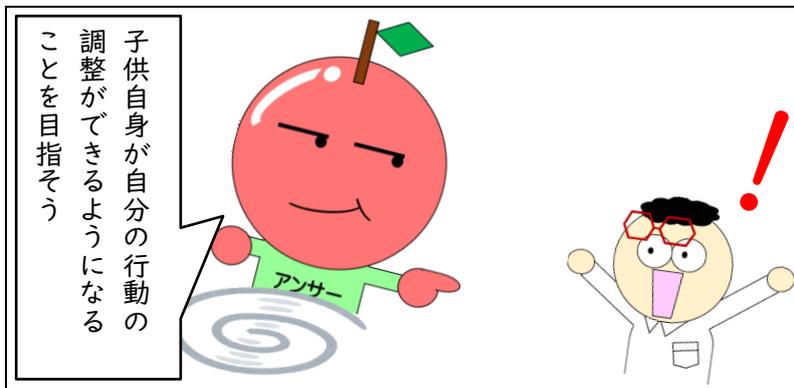
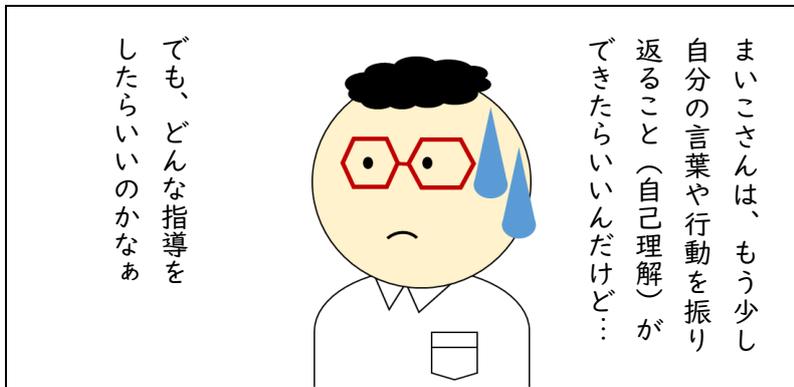
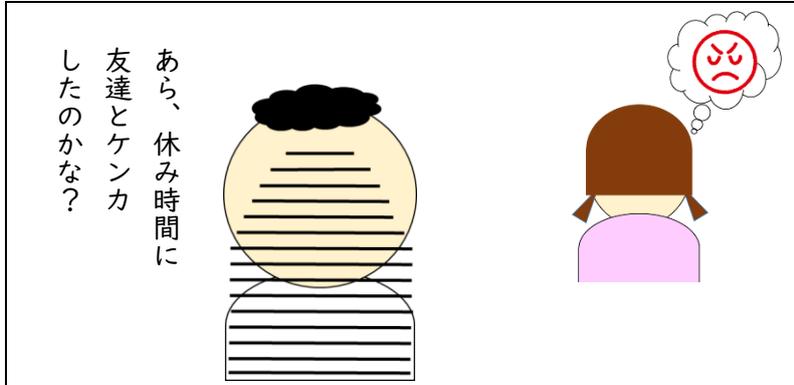
Q3 「各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。」

Q21 「子供をほめることを普段から意識していますが、どうもうまく伝わっていない気がします。」

Q26 「どのような指導・支援の手立てが効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)

Q14. 「自己理解」の力を育てたいのですが、どのような指導をすればよいのでしょうか。



苦手な状況や不得意なことの理解を促し、その子なりの対処法を考える

□ **自分の苦手な状況や不得意なことについて、実感の伴った理解ができるよう、実際の場面を取り上げて指導します。**

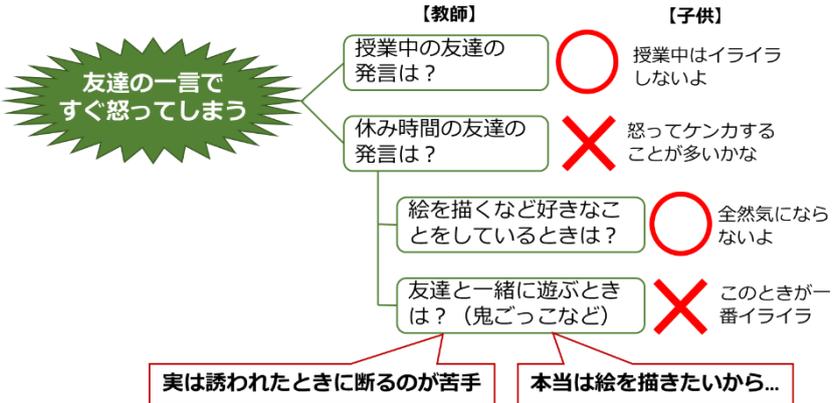
友達とのトラブル時に不適切な行動が見られた場合は、その場では一番大切なことを端的に伝え、行動の振り返りは癪癪^{かんしゃく}やパニックが落ち着いてから行います。子供の実態によっては、下図のように、「言ったこと」や「思ったこと」を吹き出しで可視化（見える化）した方が理解しやすい場合があります。このように実際の場面を取り上げて、自分の苦手な状況や不得意なことを具体的に考える活動を行うことで、自己理解が深まっていきます。

また、他者の意図や感情の理解が苦手な自閉症のある子供にとっては、「他者が自分をどう見ているか」、「どうしてそのような見方をするのか」などを考える機会にもなります。



□ **子供の思考を可視化（見える化）しながら、対処方法を一緒に考えます。**

苦手な状況や不得意なことの理解をねらった指導だけで終わらず、それに対する対処方法もセットで考えます。例えば、丁寧に対話しながらプリント等に下図のように書いていき、「なぜ、友達の一言ですぐ怒ってしまうのか」を明らかにします。この子供の場合、「絵を描く」という得意なことを生かして、「遊びに誘われたときに、『今日は絵を描きたいから。ごめん、また誘ってね。』等と上手に断る方法を学ぶ」ことが大事な課題になるでしょう。



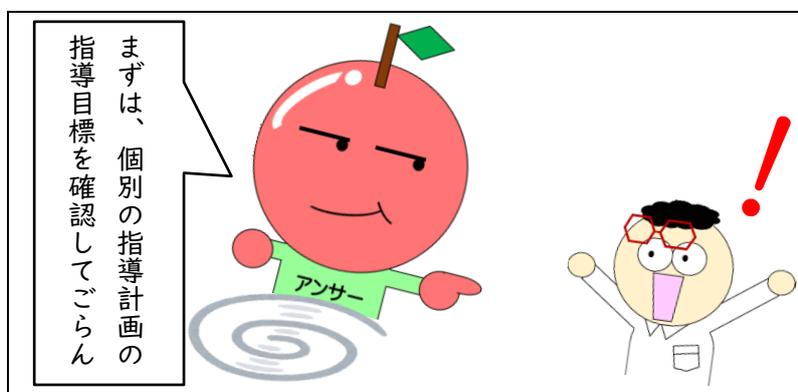
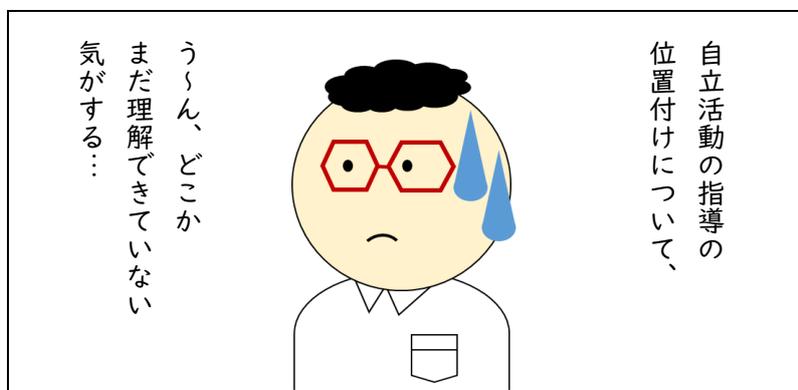
【文献】武田鉄郎（2014）：叱らないが譲らない「提案・交渉型アプローチ」の効用。実践障害児教育,Vol.491,10-13.

よく一緒に読まれている Q

- Q9 「[交流学級でのテスト実施時における配慮について、どう考えればよいのですか？](#)」
- Q22 「[子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいですか？](#)」

[目次に戻る](#)

Q15. 自立活動の指導と教科指導は、どのように関連しているのですか？



自立活動の指導の場は？

自立活動の指導は、学校の教育活動全体を通じて行う「自立活動の指導」と、その一部である「自立活動の時間における指導」があります。

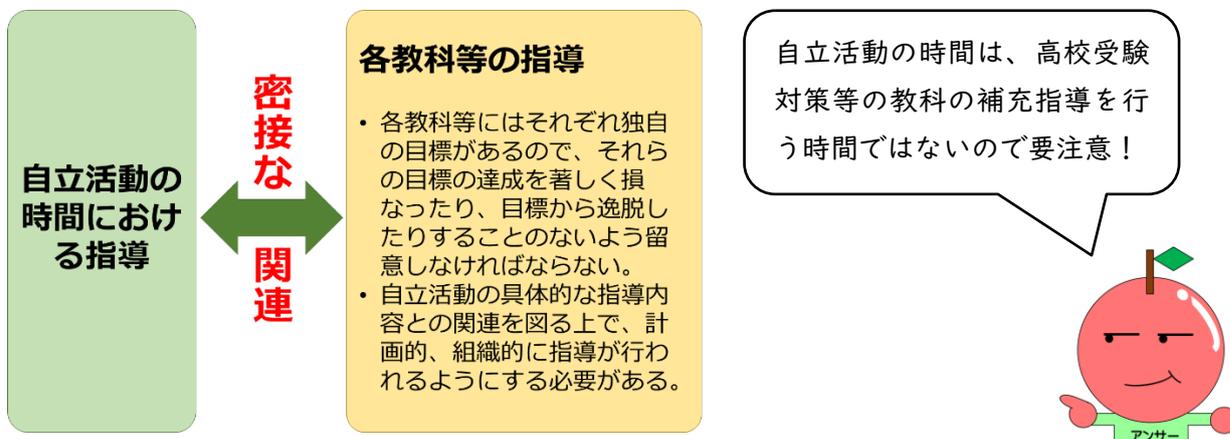


子供の中心な課題に基づく指導
目標・内容だから、教育活動全体
で指導する必要があるんだよ



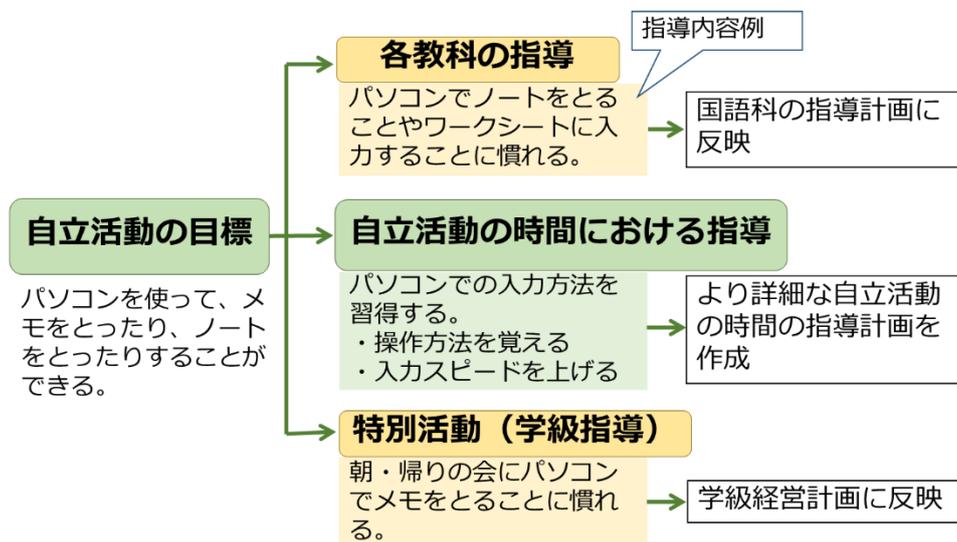
教育活動全体を通じて行うとは？

自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心としつつ、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行う必要があります。それが、教育活動全体を通じて行うということです。



諸計画への反映のイメージは？

自立活動の指導を各教科等の指導に関連させ、諸計画に反映させるイメージを下図に示しました（全国心身障害児福祉財団、2011）。書字に困難がある子供が、代替手段としてパソコンを使って学習することをねらいとした事例です。



【文献】全国心身障害児福祉財団（2011）：新しい自立活動の実践ハンドブック。

よく一緒に読まれている Q

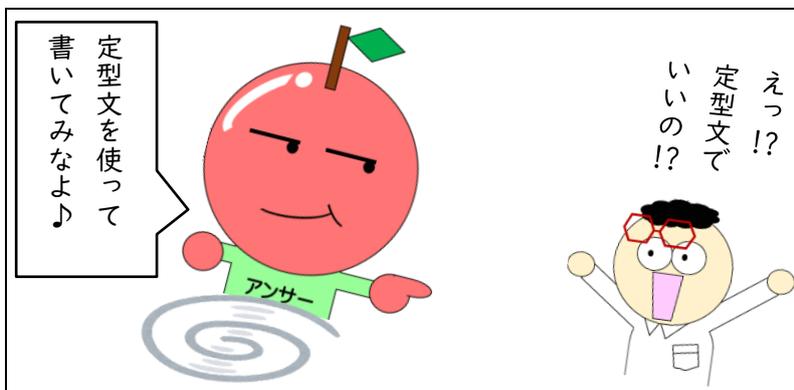
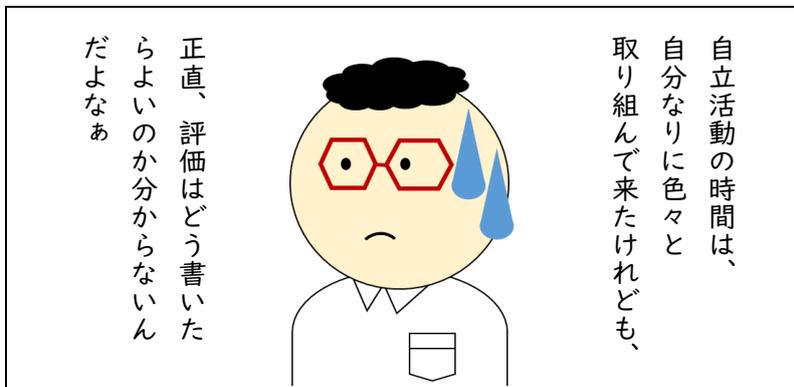
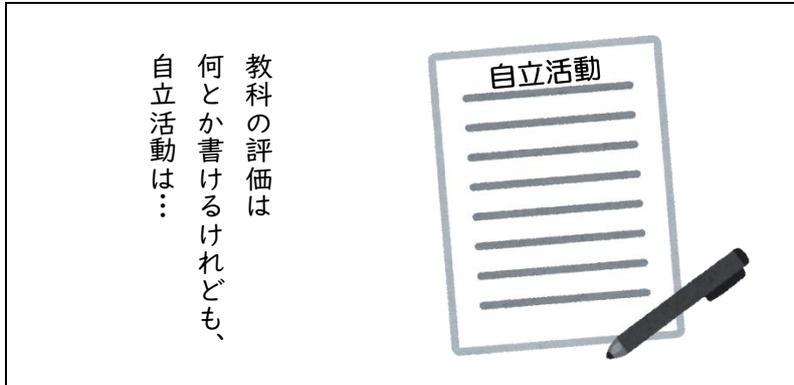
Q4 「生活単元学習では、学習活動がマンネリ化しがちです…」

Q10 「自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？」

Q12 「『明日の自立活動の授業、どうしよう…』という日々です。計画的に指導するにはどうしたらよいですか？」

[目次に戻る](#)

Q16. 自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいのかわかりません。



慣れるまでは定型文で書く

- ~をねらい、 (指導目標)
~に取り組んだ。 (具体的な学習内容)
その結果、~することで、 (支援の手立て)
~できるようになった。 (できるようになったこと及びその程度)

自立活動における学習評価は、実際の指導が個々の指導目標（ねらい）に照らして、どのように行われ、子供がその指導目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにするものです。学習評価の書き方に悩まれている場合、慣れるまでは上記の定型文で書いてみてはどうでしょうか。

例：自閉症のある子供に対する自立活動の評価

集団活動において不安が大きくなったときに、教師に自分の気持ちを表現できることをねらい、感情の表現方法に関する学習に取り組んだ。その結果、様々な感情の表現方法が記載されている「気持ちカード」を用いることで、自分から学級担任に不安な気持ちを伝えることができるようになった。

評価が書きにくいのは指導目標見直しのサイン

- 指導目標が児童生徒の実態に合っていないことが原因で、評価が書きにくい場合があるので、指導目標を見直してみましょう。
- 具体的で観察可能な行動を指導目標に設定することができれば、指導記録の観点が明確になり、評価しやすくなります。

自立活動の指導は、個別の指導計画を作成して行いますが、計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しであり、子供にとって、適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになっていくものです。したがって、子供の学習状況や指導の結果に基づいて、適宜修正を図る必要があります。

評価が書きにくい場合、指導目標が児童生徒の実態に合っていない可能性がありますので、思い切って指導目標を見直してみましょう。具体的で観察可能な行動を指導目標に設定することで、どの程度できているか（例：〇〇回取り組んで〇回できた、〇〇%できた）という指導記録をとりやすくなります。それが、自立活動における学習状況の適切な評価や、具体的な指導の改善につながります。

よく一緒に読まれているQ

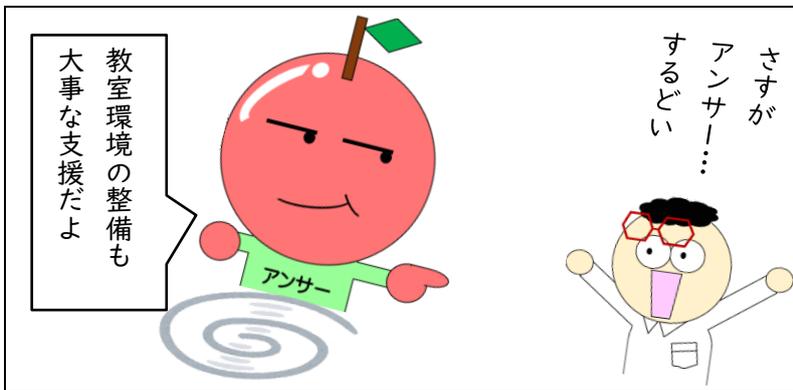
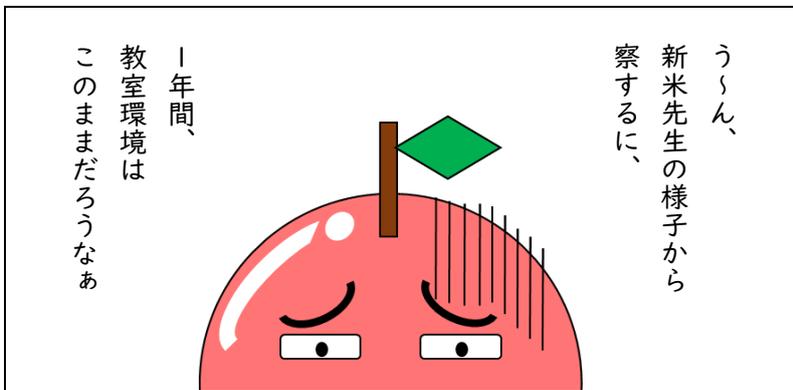
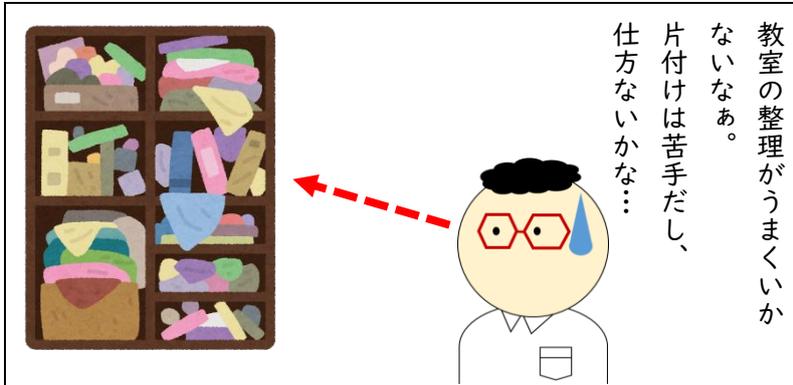
Q11 「自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。」

Q28 「個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。」

[目次に戻る](#)

Q17. 教室の整理、机の配置等、子供が集中しやすい環境のつくり方が分かりません。コツが知りたいです。



子供が安心して過ごせる教室環境づくり

- 教室環境についても、子供の実態に応じて考える視点が重要です。
- 生活や学習の見通しのもちやすさなど、子供の安心感につながるかどうかのポイントです。

(例) 注意が逸れやすい子供 → 学習する場所の刺激を少なくする
 整理整頓が苦手な子供 → どこに何を置くのか、どのように置くのかを視覚的に示す

このように、子供の実態に応じて考えることが重要なので、実態をまとめた資料等を今一度確認してみましょう。そして、以下のような視点で、子供の安心感につながる教室環境を整えます。

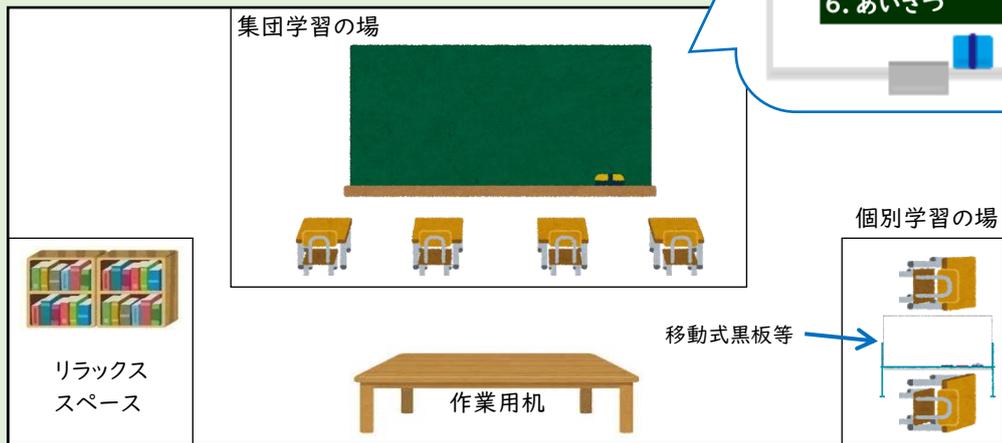
- 自分で行動できる環境
- 日課が分かる、活動の見通しをもつことができる環境
- 学習場所が分かる環境
- 規則的でまとまりのある学校生活を送ることができる環境

教室環境を整えた後も、「子供が分かって行動できているかな?」「授業中、集中できているかな?」等、子供の様子や行動を観察して、改善していく必要があります。子供一人一人と相談しながら「見やすい、使いやすい、安心できる」教室環境づくりを心掛けたいですね。

教室環境のレイアウト例

黒板には、今日の予定や授業の流れを提示して見通しをもたせます。ただし、黒板に様々な内容を示しすぎて子供が混乱すると予想される場合は、ミニホワイトボードに書いて必要のないときに取り外したり、布を被せたりするなどの工夫が大切です。「子供が分かって動くためには…?」を考えながら作ってみましょう。

また、ロッカーやお道具箱、清掃用具入れなどには、「何を入れるのか」「どのように入れるのか」を明確にして、正しい入れ方を写真やイラストで提示することで、片付けや物の管理がしやすくなります。



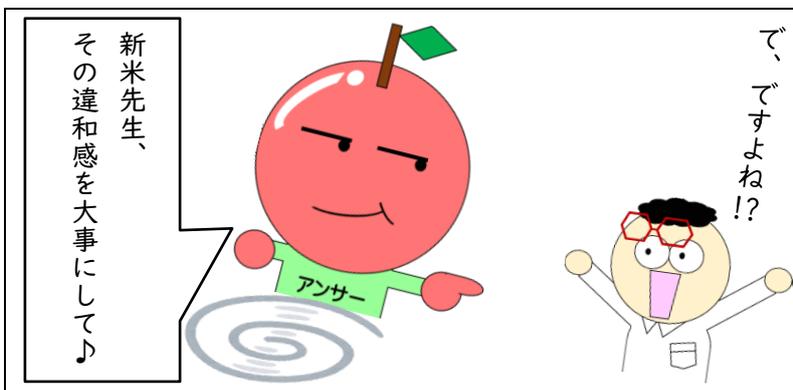
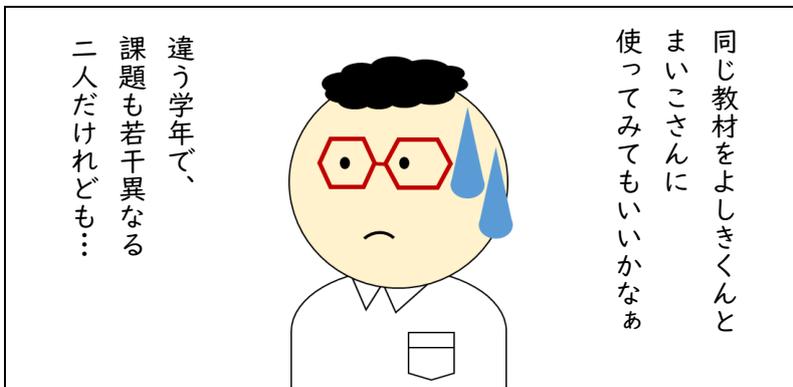
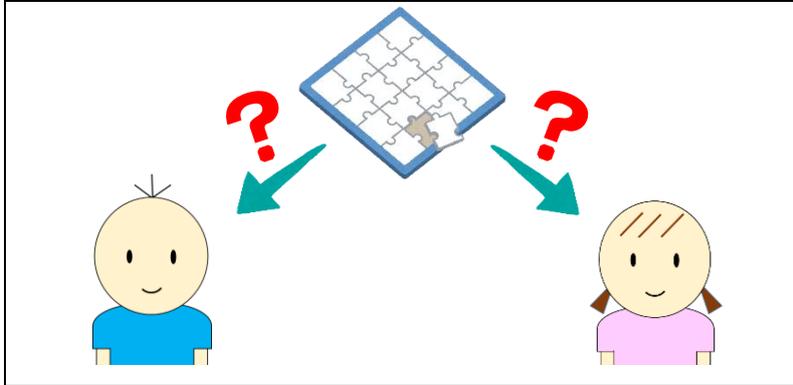
【文献】阿部利彦（2017）：通常学級のユニバーサルデザインスタートダッシュ Q&A55，東洋館出版社。
 鳥取県教育委員会東部教育局（2014）：元気の出る特別支援学級担任のための手引き（実践編）。

よく一緒に読まれている Q

Q7 「[交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか?](#)」

[目次に戻る](#)

Q18. 子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。



教材・教具が子供の実態に合っているかどうかにかかわる

- 子供の障害の状況や能力、特性、発達段階に合った教材・教具を考え、それが授業の目標達成に必要な物かどうかを吟味します。

子供の障害の状況や能力、特性、発達段階を踏まえた上で、授業の目標を達成するために、「必要な教材・教具は何だろう？」と考えることが、教材研究において不可欠です。例えば、教材・教具が子供の発達段階に合っていない場合、「うまく使えず子供が困っている」「初めて使うのに、すぐできてしまい飽きている」といった様子が見られることがあります。

特別支援教育における教材・教具というと、高価な市販の教材・教具や専門的な知識・技能が必要な自作教材をイメージされる方が多いかもしれませんが、決してそればかりではありません。教材・教具には、写真（絵）カードや学習プリント、使いやすさに配慮された市販の筆記用具、ICT 機器等も含まれます。そのため、「何か作らなきゃ…。でも時間が…。」と無理に自作にこだわらず、身近にある物を活用する視点も大切です。どのような物であれ、子供の実態に合っているかどうかが最も重要です。



教材作りを楽しむ

- 子供が活用している姿や反応をイメージしながら教材を作成しましょう。

教材・教具を作成する際は、子供が活用している姿や反応をイメージしながら作成することを意識しましょう。教材を作成する際のポイントは次のとおりです。

教材作成のポイント

- 「できた」という達成感があり、またやってみたいと思うようなもの
- 始めと終わりが分かりやすく、結果を確認しやすいもの
- 興味・関心をひくもの
- 使用しても壊れにくく、安全に使用できるもの



また、これからはアナログ教材だけではなく、タブレット PC 等で使用するデジタル教材を作成することもあるかと思えます。その際、担当が替わったら使えないような「高度で複雑な使い方」にならないように注意しましょう。

ぜひ、教材・教具を使った子供の姿やエピソードを教員間で共有しましょう。それが、「私の学級の子供に使う場合は、こうしようかな?」「今度は、こういうところを改良してみよう」など、教材・教具の改善に向けたアイデアを生みます。このような地道な取組が子供の成長につながるため、教材作りを楽しむ気持ちを忘れずに!

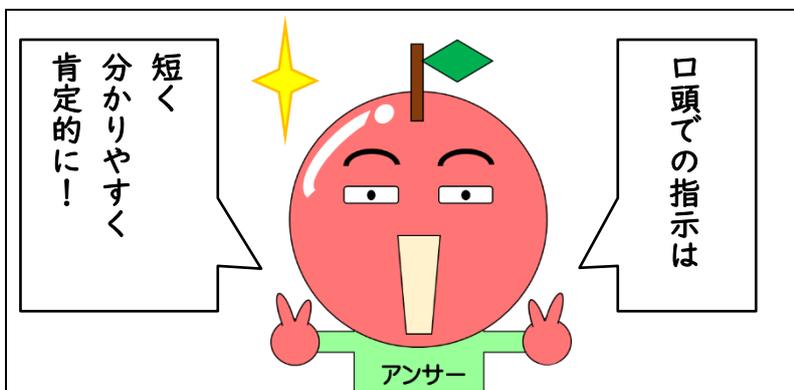
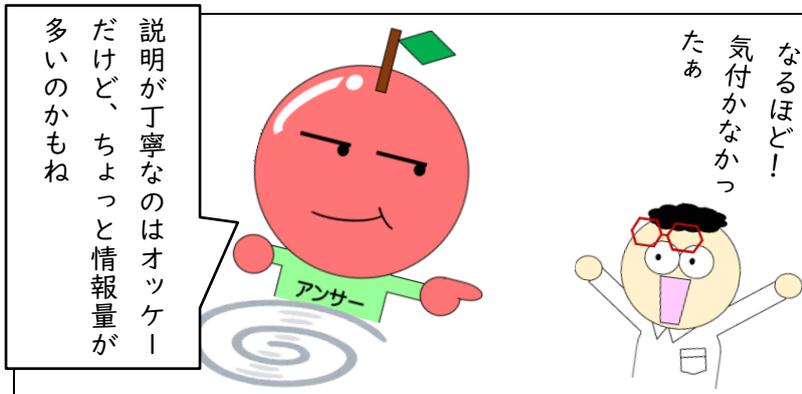
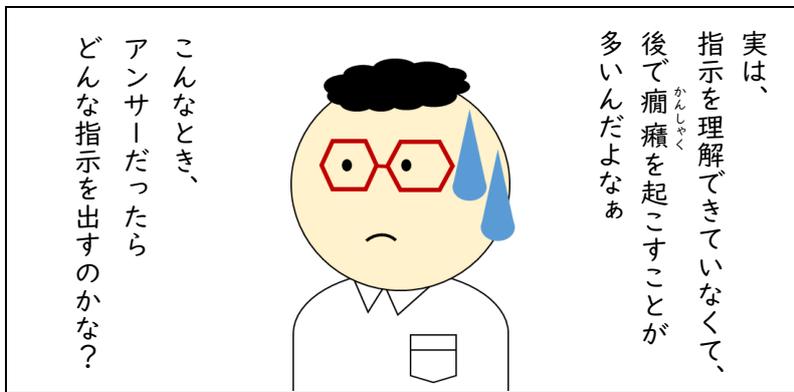
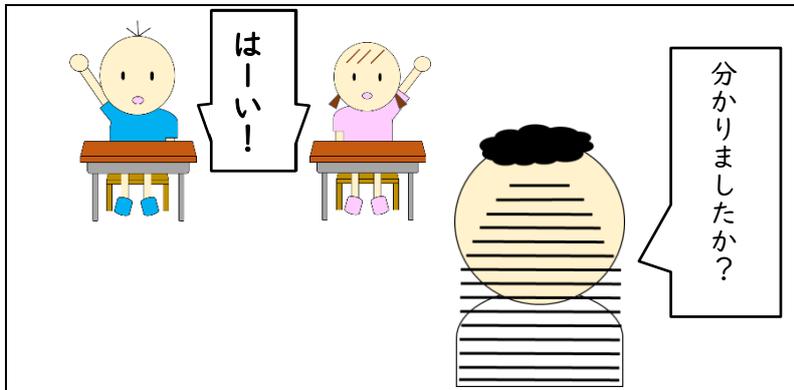
【文献】橋本正巳編著（2016）：障害の重い子どもへのかかわりハンドブック～マルチアレンジングサポートの観点から～、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団。
茨城県教育研修センター特別支援教育課（2019）：特別支援学級スタート応援ブック【授業づくり編】第3版。

よく一緒に読まれている Q

Q11 「[自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか?](#)」

[目次に戻る](#)

Q19. 子供になかなか指示がとおりません。コツはありますか？



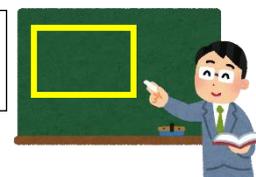
口頭での指示は「短く・分かりやすく・肯定的に」

口頭指示のポイント

短く (一度に一つの指示)	「先生が黒板に書いたところをノートに写してください」 →「黄色で囲んだところ(指差しながら)をノートに書いてください」
分かりやすく (具体的な行動で)	「あと少しがんばりましょう」 →「あと20回跳びましょう」「あと3分間走ります」
肯定的な言い方で	「騒がない」「うるさくしない」 →「静かにします」 「廊下は走らない」 →「廊下は歩きましょう」

子供の実態によっては、「子供が分かる形」(例えば、絵や写真を使うなど視覚的な手掛かり)で指示することも大切です。また、指示を出すときは、次のことも重要です。

- 子供の注意を喚起する(視線を引きつけさせて一旦、手を止めさせる)
- 姿勢を正すように促す



間接的な指示も活用する

□ **子供が分かる形で(認知特性等に合った方法で)、板書や掲示物等による間接的な指示を活用して、子供の主体的な行動を引き出します。**

例えば、日課や学習の流れなどを分かりやすく提示することで、教師による直接的な指示があまりなくても、子供が見通しをもって主体的に行動できるようになります。

- いつ □ どこで □ なにを
- いつまで/どれくらいの量を □ どのようなやり方で
- 終わったら次に何をするのか など



また、事前に予定(予定変更を含む)を伝えることにより、子供の不安感や混乱を軽減することもできます。

4じかんめ ずこう

- 色ぬり(クーピー)
- 20 ぶんかん
- おわったら、かたづけ
→きゅうしょくのじゅんび

写真やイラストを用いたり、チェックリスト風にしたりするなど、子供にとっての分かりやすさにこだわって作成しましょう♪

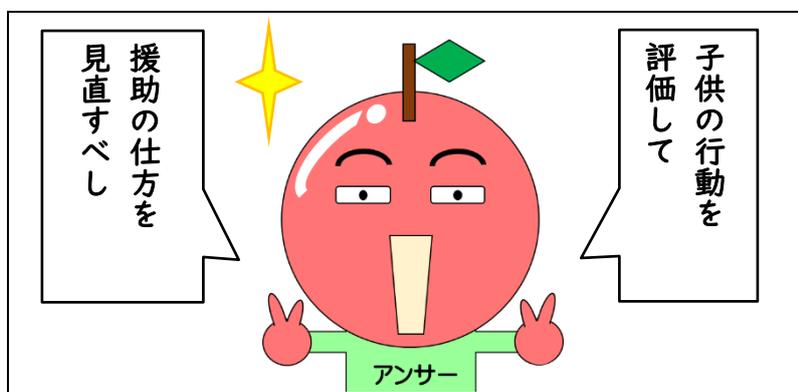
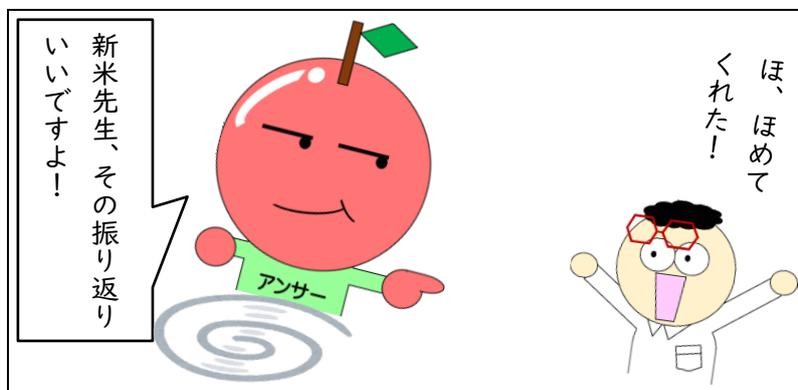
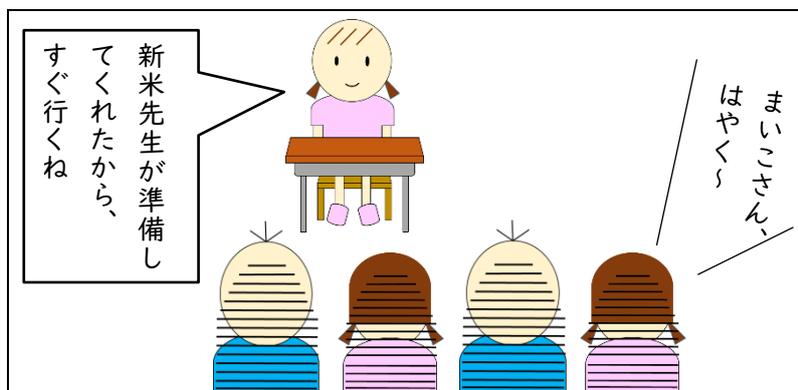
【文献】青森県教育委員会(2005):学習のつまずきや行動の困難さを理解し支援をするために(第2集)。

よく一緒に読まれているQ

Q21「[子供をほめることを普段から意識していますが、どうもうまく伝わっていない気がします。](#)」

[目次に戻る](#)

Q20. どうしても子供に援助し過ぎてしまいます…。



子供の行動を評価し、本当に必要な援助を見極める

- 過剰に援助しがちな場面における子供の行動を評価（できている／もう少しでできる／できていない）します。
- できていない場合は、どこまで（どう）援助すればできるようになるのかを考えてみましょう。

「～できるようにしなければ」という強い責任感から、子供への指示や注意、援助が多くなることがしばしばあります。また、「他の子供たちが既に〇〇しているから、その子が遅れないように自分（教師）がやってしまった…」という経験はありませんか？子供によかれと思って行った援助が、もしかすると、子供の「自分からやってみよう」という意欲や経験の機会を奪っているかもしれません。まずは、子供への援助の仕方を見直すために、子供がどの程度行動できているかを評価しましょう。



チェック

できている / もう少しでできる / できていない

「もう少しでできる」「できていない」場合には、「できる」を目指すために…

- どんな援助（支援）が必要か → その手掛かりは、「人」なのか「人以外」なのか

手掛かりが「人」の場合

- 援助のタイミングは「いつ」？

- 援助の量は「どれくらい」？

できるようになってきたら

- 援助の減らし方は「どのように」？

先生自身の振り返りが大切

- 授業のビデオ記録を活用して子供へのかかわり方を振り返ることで、よりよい援助の仕方を考えやすくなります。

授業のビデオ撮影を行い、過剰に援助してしまう場面を振り返ることで、子供の行動を客観的に評価しやすくなるとともに、本当に必要な援助が考えやすくなります。毎日撮影するのは、子供や教師にとって負担が大きいため、例えば、1週間に1回 20分間等、無理なく続けられる頻度で実施してみましょう。

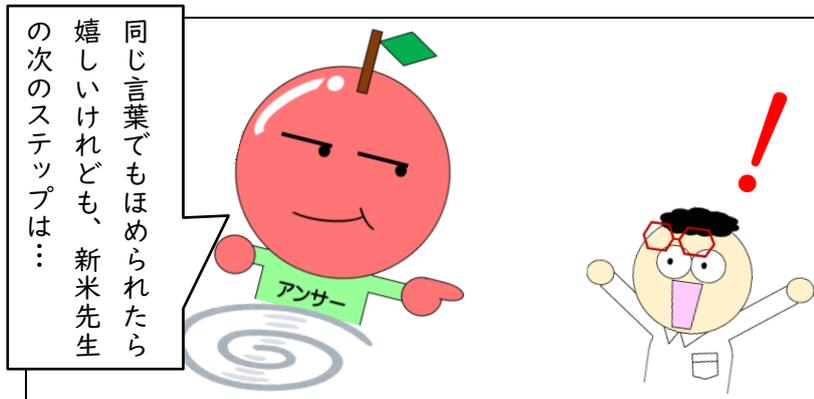
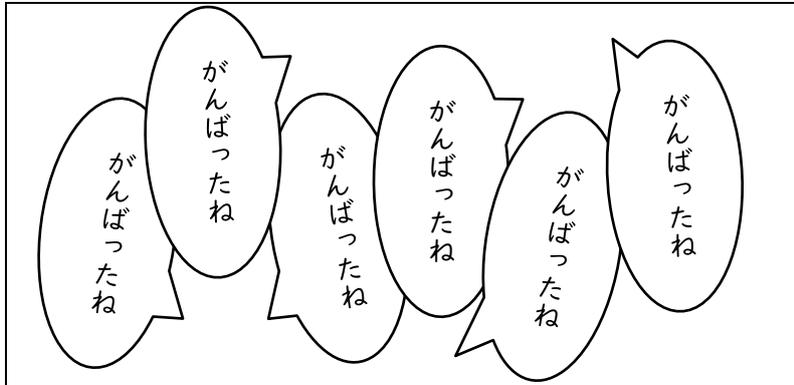
- 【文献】青森県教育委員会（2015）：特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの指導のためのハンドブック。
村中智彦 編著（2015）：「困った」から「わかる、できる」に変わる授業づくり。明治図書。
大羽沢子・井上雅彦（2007）：特別支援学級担任の短期研修プログラムの開発と有効性の検討—学習指導場面における教授行動と学習行動の変容—。特殊教育学研究，45（2），85-95。

よく一緒に読まれている Q

Q22 「子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいですか？」

[目次に戻る](#)

Q21. 子供をほめることを普段から意識していますが、どうもうまく伝わっていない気がします。



ほめ方のバリエーションを増やし、子供の実態や状況に応じて使い分ける

- ほめ方には、「即時性／具体性／明確性／多様性」の4つのポイントがあります。まずは、子供が分かる方法でほめること（明確性）が重要です。

ほめ方のポイント

- 明確性 … 子供が分かる形ではっきりとほめてみよう！
- 即時性 … よい行動が起こったら、すぐにほめてみよう！
- 具体性 … 適切な（よい）行動の内容を具体的にほめてみよう！
- 多様性 … 様々なバリエーションを付けて、ほめてみよう！



例えば、「がんばったね。」などのほめ言葉が、子供に本当に伝わっているかどうかを疑問に感じることはありませんか？そのようなときは、その子にとって分かりやすい方法でほめること（明確性）が重要です。ほめた後の子供の様子を見て、取り組み方に変化（活動のスピードが上がる、取り組む姿勢が変わる、安心した表情をしているなど）が起きていたら、ほめたことが、「子供に伝わっている」と捉えてもよいでしょう。

- 子供の年齢や特徴、好きなワード、声のトーン、ジェスチャーなどを組み合わせて、ほめ方の様々なバリエーションを使い分けられるようにしておきましょう。

いつも同じ言葉や調子でほめていると、徐々にその効果が薄れてきます。単にほめ言葉のパターンを増やすだけでなく、声のトーンやジェスチャー、表情等を組み合わせることで、ほめ方の様々なバリエーションが生まれます。その他、次のような方法も参考にしてみてください。

- 短い言葉でほめる
 - － いいね、よしっ！、できてる・できてる
- 注目（視覚的）を入れる
 - － 花丸、シール、スタンプなど
- みんなの前でほめる
 - － 教室のごみを拾ってくれました、ありがとう！拍手
- 終わった後に好きな活動を許可する
 - － ***が終わったら、好きな本を読んでいてもいいですよ
- 子供の目を見て、ほほえみながらうなづく
- 子供が分かるサインを出す
 - － OKサイン、いいね！サイン



これらの子供の実態や状況に応じて使い分けることが重要です。

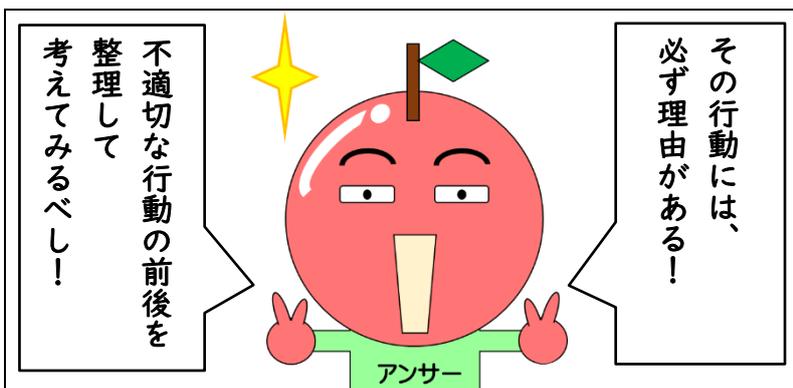
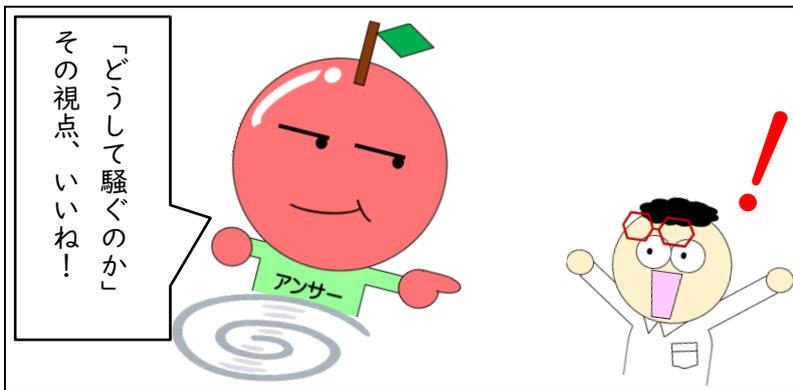
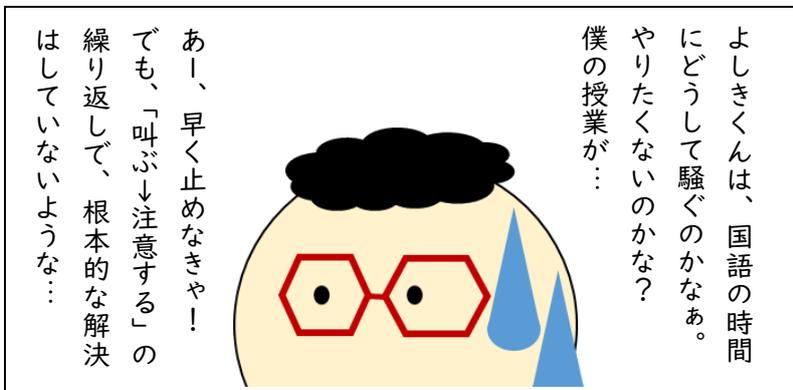
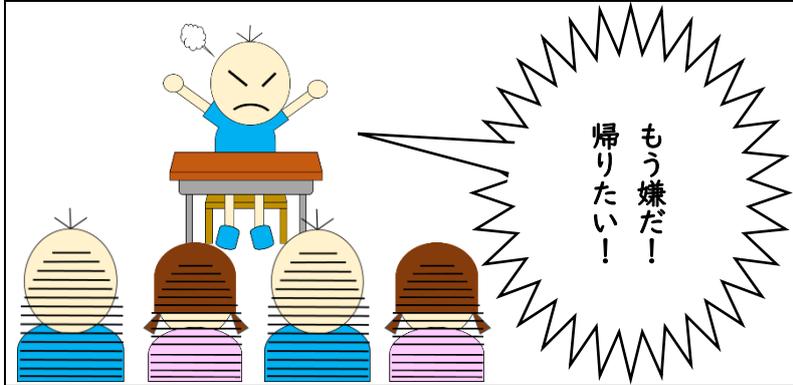
【文献】山本淳一・池田聡子（2007）：できる！をのぼす行動と学習の支援－応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育。日本標準。

よく一緒に読まれているQ

Q19「[子供になかなか指示がとおりません。コツはありますか？」](#)

[目次に戻る](#)

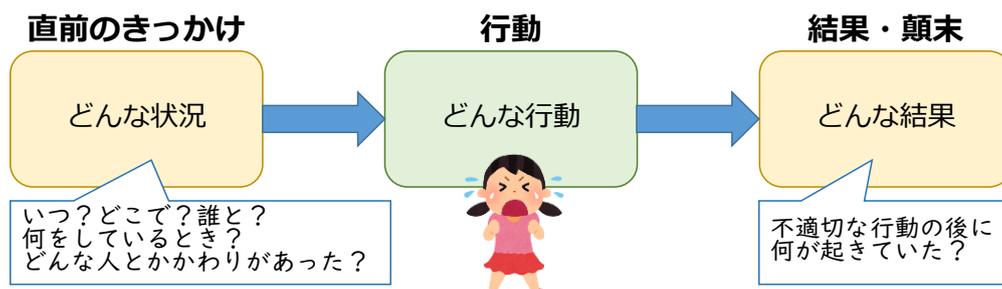
Q22. 子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいのですか？



行動の「理由」を考える

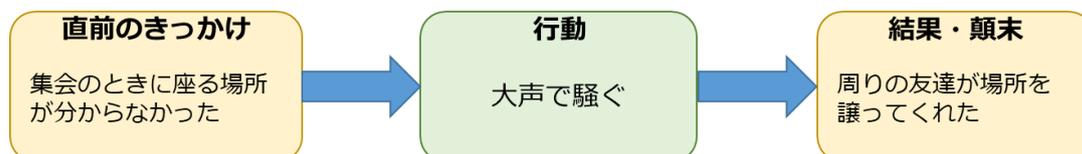
- 不適切な行動への対応ばかりに気を取られず、その前後に何が起きているのか？
という事実を明らかにして、状況を整理してみましょう。

指導者は、子供の「叫ぶ」「騒ぐ」「飛び出す」「寝る・伏せる」などの不適切な行動ばかりに目が行きがちで、どうしても対症療法的な指導になってしまいます。まずは、「なぜ、そのような行動をとっているのか？」という視点に発想を転換し、不適切な行動の前後に何が起きているのかを明らかにして、行動の理由を考えてみましょう。



このように整理してみると、「あれ？私のかかわり方が、子供の不適切な行動につながっていた…。」ということも少なくありません。行動の前後の対応を変えることで、子供の行動が変わることがあります。子供のせいにはせず、「子供を取り巻く環境やかかわり方をまず変えてみよう！」「自分のかかわり方を見直すチャンス！」と前向きに捉えて、子供と向き合しましょう。

事例をとおして 集会になると必ず大声を出して騒いでいたひとみさん（仮名）



状況を整理してみると、騒いでいるときはひとみさんにとって「困ったことが起きているとき」「相手に何を言えばよいのかが分からないとき」だと分かりました。「友達に『ここに座ってもいい？』『私も座りたい』と言えいいんじゃない？」等と適切な行動を求める前に、「大声で騒ぐ」という形でしか表現できなかったひとみさんの辛かった気持ちをまず受け止めたいと思いました。ひとみさんの思いをじっくり聴く時間を確保し、集会への参加方法を一緒に考えました。「座る場所を担任と事前に確認する（写真や会場図等）」ことに決まり、その方法を試したところ最後まで落ち着いて参加することができました。

ひとみさんは、この成功体験のおかげで、集団活動に自信をもって参加できるようになっていきました。

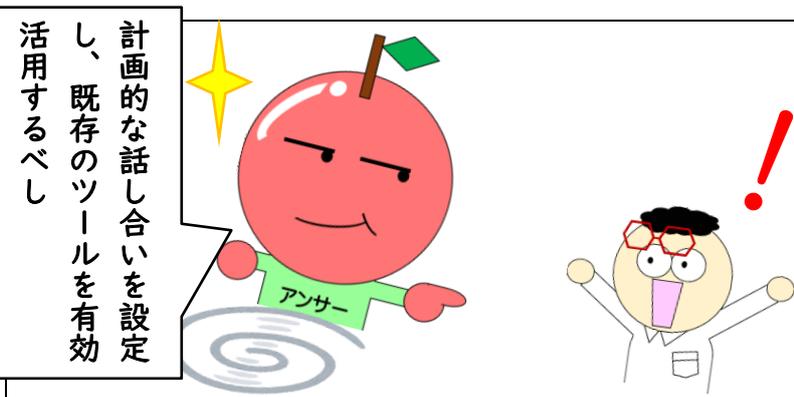
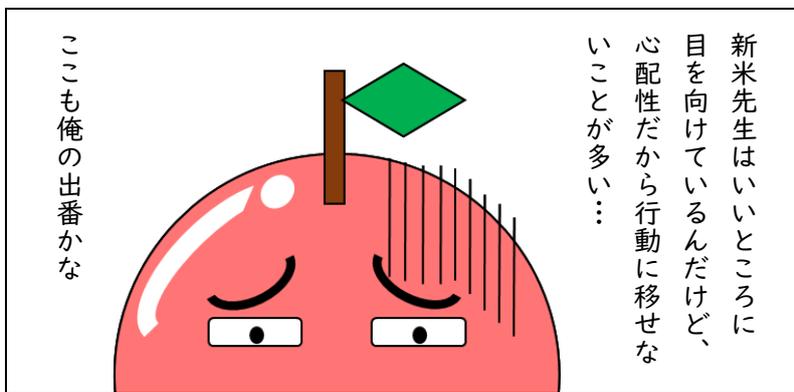
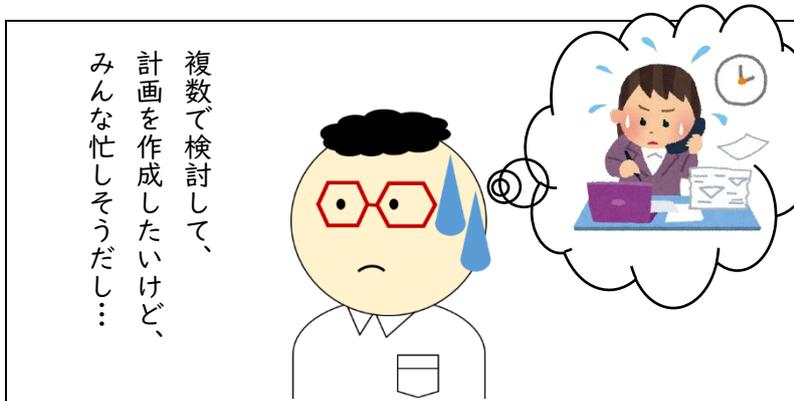
【文献】藤原義博・平澤紀子 編著（2011）：教師のための気になる・困った行動から読み解く子ども支援ガイド。学苑社。
鳥取県教育委員会東部教育局（2014）：元気の出る特別支援学級担任のための手引き（実践編）。

よく一緒に読まれているQ

Q20「どうしても子供に援助し過ぎてしまいます…」

[目次に戻る](#)

Q23. 個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…。



計画的な話し合いを設定する

- 個別の指導計画の作成の効率化を目指し、具体的な検討の日程を年間行事予定や月別行事予定に記載してもらいます。
- 個別の指導計画の作成や見直しに係る作業は、全て担任が行うのではなく、特別支援教育コーディネーター等と役割分担して進めます。

個別の指導計画の作成には、多くの時間が費やされるため、複数の教員が集まって作成するのは難しいと感じている方が多いのではないのでしょうか。個別の指導計画を担任が作成する場合でも、複数の教員で作成する場合でも、作成した個別の指導計画をみんなで読み合わせたり、確認したりすることが大切です。読み合わせは、誤字脱字や内容のチェックだけではなく、子供一人一人の実態・目標・指導内容等を共通理解し、指導方針を検討・確認することで、授業や生活場面での一貫した指導につながります。例えば、年度初めに個別の指導計画の見直し日を設定することも考えられます。年間の予定に組み込まれていることで、担任以外の教員への参加を呼びかけやすく、学年を超えた教員の参加も見込まれます。

このように、個別の指導計画を複数の教員で作成したり、見直したりする体制を構築するためには、校内での様々な調整が必要になります。そのため、特別支援教育コーディネーター等と役割分担して、作業の効率化を図っていきましょう。



既存のツールを活用する

- 個別の指導計画における「計画－実践－評価－改善」という一連のサイクルにおいて、既存のツールを関連付けて活用していきましょう。

個別の指導計画の作成（「計画」の段階）では、既存の各種ツールを関連させ、活用することが大切です。下表は、その一例です。

そして、「評価」の段階においても、これらのツールを活用することで、子供の変容を捉えやすくなります。そうすることで、指導・支援の一貫性や作業の効率化が期待できます。

項目	活用が想定されるツール
実態把握	健康診断の記録、連絡帳、面談の記録、アセスメントの結果、個別の指導計画（前年度）、個別の教育支援計画
目標設定	個別の指導計画（前年度）、個別の教育支援計画
具体的な手立て	各教科等の年間指導計画、日々の実践の評価

【文献】神奈川県立総合教育センター（2016）：個別教育計画活用ケースブック。

よく一緒に読まれている Q

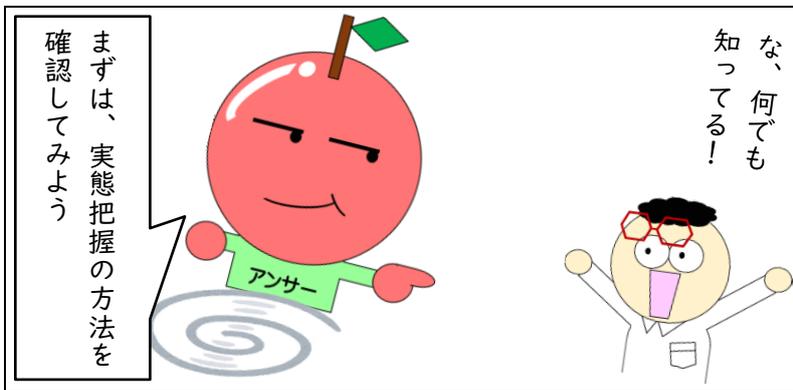
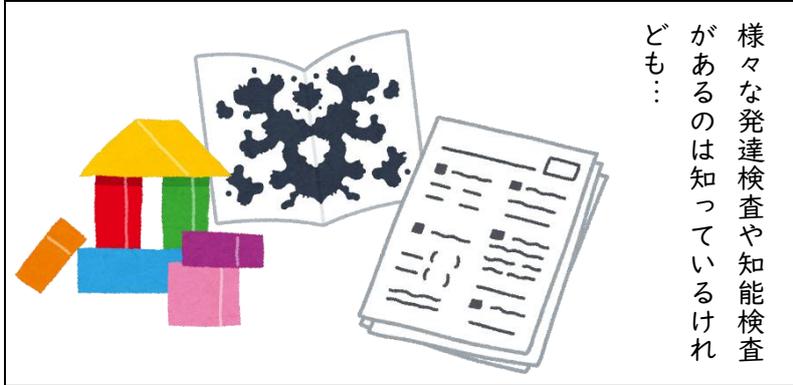
Q24 「発達検査や知能検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。」

Q26 「どのような指導・支援の手立てが効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)

Q24. 発達検査や知能検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？



多面的に情報を収集する

- 子供一人一人の障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境等の実態を把握します。

個別の指導計画の作成のためには、子供がこれまでの生活の中でどのような体験をして、成長してきたかを知ることが重要であり、この実態把握が効果的に教育活動を進めるために必要となります。子供に関する情報を多面的に収集し、それらを整理・分析して、目標を設定し、指導・支援の手立てに生かしていきます。

収集する情報の内容例

- 病気の有無や状態
- 人やものとのかかわり
- 対人関係や社会性の発達
- 聴覚機能
- 興味・関心
- 学習上の配慮事項や学力
- 進路
- 生育歴
- 心理的な安定の状態
- 身体機能
- 知的発達や身体発育の状態
- 障害の理解に関すること
- 特別な施設・設備や補助用具（機器を含む）の必要性
- 家庭や地域の環境
- 基本的な生活習慣
- コミュニケーションの状態
- 視機能

目的に応じて実態把握の方法を工夫する

- 観察法、面接法、検査法等の直接的な実態把握の方法の特徴を十分に確認しながら、目的に応じて実態把握の方法を工夫しましょう。

実態把握と聞くと、発達検査や知能検査を思い浮かべるかもしれませんが。標準化されている検査は、信頼性や妥当性も保証されており、情報共有の面でも誤解が生じにくいという強みがあります。しかし、先生方が日々行っていることの中にも、貴重な実態把握の機会がたくさんあります。授業や休み時間、放課後等の様子について行動観察すること、本人や保護者との面談を通して、本人・保護者のニーズや主訴を明確にすること、子供のノートや提出作品、テストへの反応等です。これらは、日々の教育活動の中でできるため、視点を押さえることで、実態把握と指導・支援が直結し、非常に有効な実態把握となります。

また、医療機関や保護者等、第三者からの情報による実態把握も大切です。

実態把握の方法（一例）	
行動観察	授業や休み時間、放課後の様子等
面談	本人、保護者からの情報
他機関からの情報	福祉、医療等
検査	発達検査、心理検査等
テスト、作品等	児童生徒の活動の結果すべてが対象



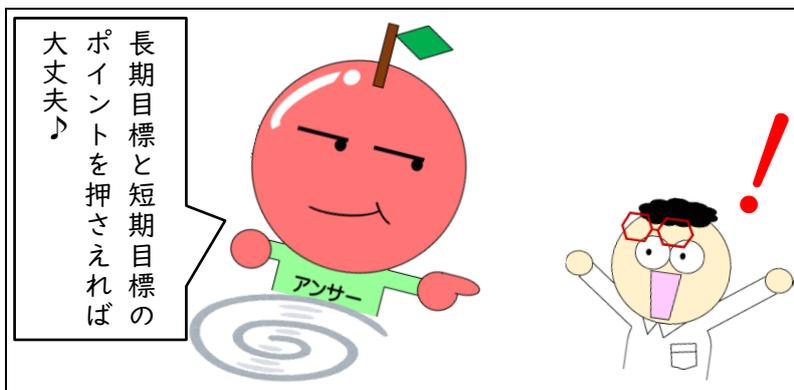
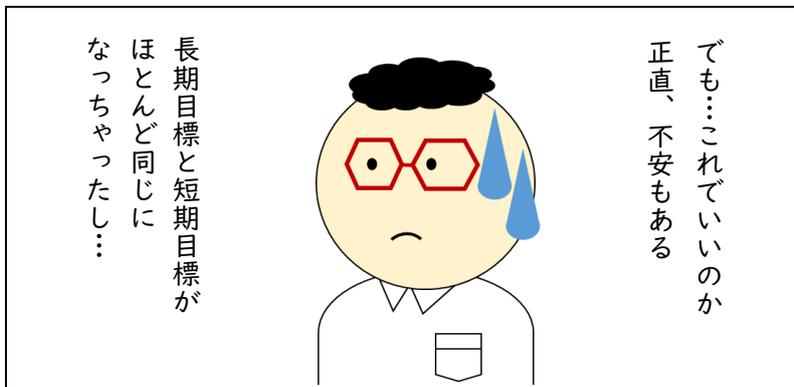
よく一緒に読まれている Q

Q23 「個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…」

[目次に戻る](#)

Q25. 個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。



長期目標は指導の方向性が分かるようにする

□ 例えば、1年後の子供の姿をイメージして、長期目標を設定します。

個別の指導計画の長期目標は、実態把握で得られた情報を基に、今後の指導の方向性が分かるように設定します。また、目標をより明確化し、確実に達成していくために、一つの目標に対して、複数の要素を盛り込まずに、一つの要素に絞ります。

目標設定のポイント

- ① 目標の優先順位を決める
- ② 基本的なつまずきからアプローチする
- ③ 他の領域や課題への影響を考慮する
- ④ 次につながるような目標を設定する
- ⑤ 日常生活・社会自立を考慮する
- ⑥ 子供本人及び保護者のニーズを考慮する
- ⑦ 立てた目標について他の人の意見を聞く

【よく用いられる表現】

「～を知る」
「～を理解する」
「～を応用する」
「～を使用する」など

短期目標はできるだけ具体的なものにする

□ 長期目標を達成するために各授業場面でどのように指導していくかを、例えば学期ごとの姿をイメージしながら、具体的な短期目標を設定します。

短期目標は、観察しやすく、目標が達成できたかどうかを客観的に評価できるような表現を心掛けましょう。行動を示す動詞（「～する」「～ができる」「～と書く」等）を使ったり、場面（「朝の会で～」「音楽の時間に～」等）を限定して目標を設定したり、条件（「教師と一緒に～」「声をかけると～」）や基準（「10分間」「80%」等）を設けたりすることで、客観的な評価が可能になります。

目標の設定において、確認してほしいこと

- 目標の主体は子供になっていますか？
—（例）学級の友達とグループを組んで係活動をしたり、学習をしたりすることができる。
- 目標は子供にとってポジティブな表現になっていますか？
—「〇〇をしない」という表現ではなく、「〇〇できる」といった表現にする。
- 分かりやすい表現になっていますか？
—（例）2語文程度の定型の言葉を身に付け、先生や友達に言葉を使って自分から意思を伝えることができる。

目標が達成できた場合は、次の目標について確認し、より効果的な指導のために修正すべき点はないかを再検討します。目標が達成できなかった場合は、実態把握、目標、手立てを見直し、改善を図っていきます。目標の達成が不明確な場合は、設定された目標が曖昧であった可能性もあります。その場合には、個々の子供の実態に応じた具体的な目標となるように修正します。

【文献】青森県教育委員会（2018）：青森県教育支援ファイル作成の手引き 改訂版。
海津亜希子（2017）：個別の指導計画 作成と評価ハンドブック。学研。

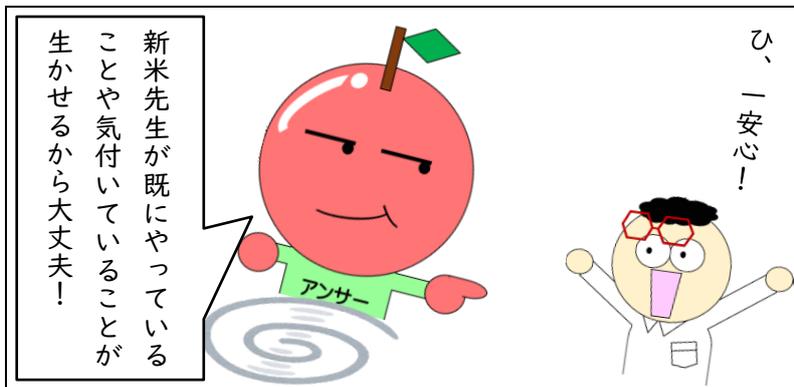
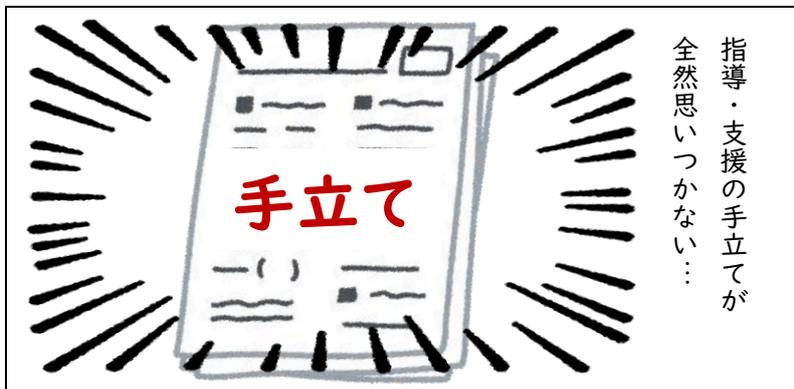
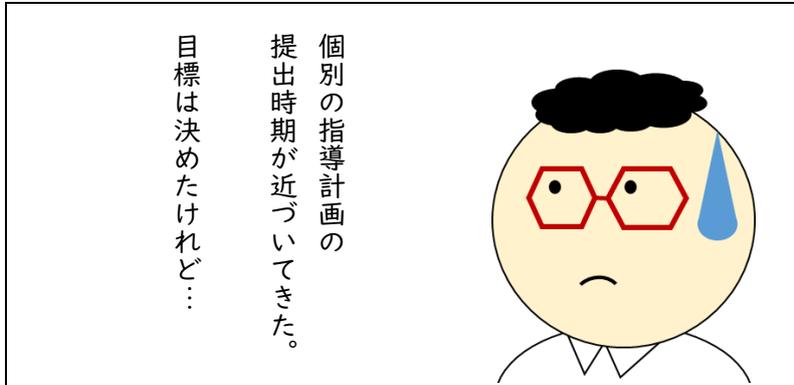
よく一緒に読まれているQ

Q23 「個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…」

Q24 「発達検査や知能検査を実施した経験はありませんが、実態把握はできるのでしょうか？」

[目次に戻る](#)

Q26. どのような指導・支援の手立てが効果的なのか判断できません。個別の指導計画にどのように書いたらよいのでしょうか？



指導・支援の手立ては短期目標に対応させる

- 設定した短期目標を実現するためには、どのような指導内容を設定し、その際にどのような指導・支援の手立てが必要かを具体的に考えます。

短期目標に対応した指導・支援の手立てを記述します。それを詳しく書くことで、引継ぎの資料としても活用しやすくなります。誰がどの時間・場所で指導するのも考えて、手立てを設定しましょう。

観点	短期目標（例）	手立て（例）
言語的な要求や指示に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・口答でのルール説明で… ・複数の指示が出されたときに… 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い言葉で言う ・番号をつけて指示を伝える、一度に出す指示を一つにする
視覚的に示された指示や教材に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に書かれた文字を見て… ・挿絵のある文章を読んで… 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の量を少なくする ・算数の文章題を図を使って説明する
デモンストレーションに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入するとき… ・他児が発表するのを見て… 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入の仕方を実際に見せる ・発表のポイントをまとめたものを用意する
ツール（道具）や教材に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・マス目のある用紙が与えられたとき… ・〇年生相当の文章題が与えられたとき… 	<ul style="list-style-type: none"> ・マス目の大きな用紙を用意する ・下学年の計算問題も用意する
環境設定に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの活動において… 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで学習する、注意が拡散しないような部屋で学習する
支援の仕方に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・隣で教師が教科書を読むのを聞いて… ・教師が声かけをしたとき… 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字にふりがなをふる ・できたときにはすぐに評価する

うまくいっているところを活用する

- 学校生活で「うまくいっているところ」を見つけ、指導に活用していきましょう。

子供のつまずきや苦手な面だけではなく、子供のうまくいっているところ（できていること、頑張っていること、得意なこと、興味や関心）に目を向けてみましょう。支援が必要な子供に対しては、うまくいっているところが指導の有効な手掛かり（補助教材の活用、言葉掛けの工夫、活動量の調整、時間の調整等）となります。

（例）	うまくいっているところ 18mmマスのノートに書き写すことができる。 ひらがなははみ出さずに書き写すことができる。
短期目標	マークに注目して、黒板の指定された部分を18mmマスノートに書き写すことができる。
手立て	板書内容にマークを貼る。 部分的に板書内容に罫線を付ける。

【文献】青森県教育委員会（2018）：青森県教育支援ファイル作成の手引き 改訂版。
海津亜希子（2017）：個別の指導計画 作成と評価ハンドブック。学研。
徳島県立総合教育センター（2008）：個別の指導計画を作成するために。

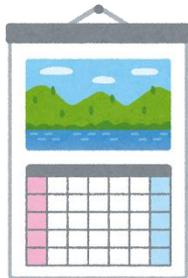
よく一緒に読まれている Q

- Q25 「[個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…。](#)」
Q28 「[個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。](#)」

[目次に戻る](#)

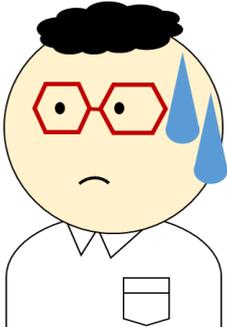
Q27. 個別の指導計画はいつ評価すればよいのですか？

気が付いたらもう夏休み



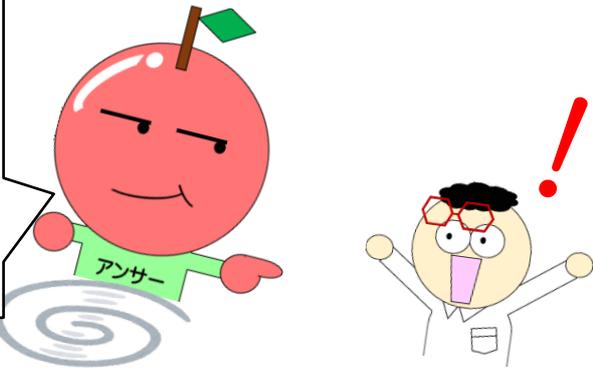
そう言えば、個別の指導計画っていつ評価すればいいのかなあ：

学校の様式は、評価の時期は、明記されていない



何となく年度末にだけ評価してきたけれど：

個別の指導計画を効果的に活用するためには、常に評価の視点をもっていないとね



できるだけ短期間で評価することを意識するべし

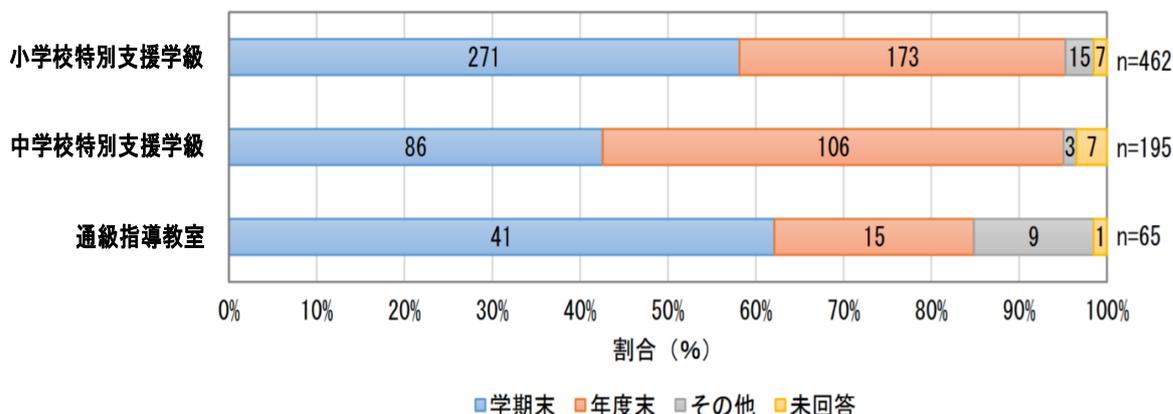


それを踏まえて計画は適宜修正を！

できるだけ短期間で評価することを意識する

□ まずは、学期末に評価することを意識した個別の指導計画を作成してみましょう。

個別の指導計画の評価時期（青森県総合学校教育センター、2020）



実態調査の結果では、個別の指導計画の評価時期を「年度末」にのみ設定している教員が、小学校特別支援学級では 37.4%、中学校特別支援学級では 54.4% いました（上図）。

年度末に 1 年間の総合的な評価を行うことも大事ですが、個別の指導計画を活用して指導を充実させるためには、学期末など短期間で定期的に評価することも重要です。そのためには、短期間で評価可能な指導目標（短期目標）を設定する必要があります。また、適切な学習評価のためには、日々の指導記録も欠かせません。指導目標が具体的で観察可能なものであれば、指導記録をとる視点も明確になります。

なお、短期目標の設定については、[Q25](#) を参照ください。

個別の指導計画を活用して PDCA サイクルを回す

□ 個別の指導計画は、評価の結果を踏まえて、目標や指導・支援の手立てを適宜修正し、指導の改善につなげます。

個別の指導計画は、年度初めの仮説に基づいて立てた見通しですから、当然、児童生徒の学習状況や指導の結果によっては、年度途中に修正する必要性が生じます。個別の指導計画の修正について、もし「当初の見通しが甘かったから仕方なく修正する」というように捉えている方がいたら、ぜひ「指導の充実のために積極的に修正した方がよい」というように発想を転換しましょう。それが、子供の実態に応じた指導の PDCA サイクルを回すことにつながります。

ちなみに、朱書きで修正することで、指導経過を「見える化」することができます。



【文献】青森県総合学校教育センター（2020）：青森県内小・中学校における特別支援学級、通級による指導に関する実態調査報告書。

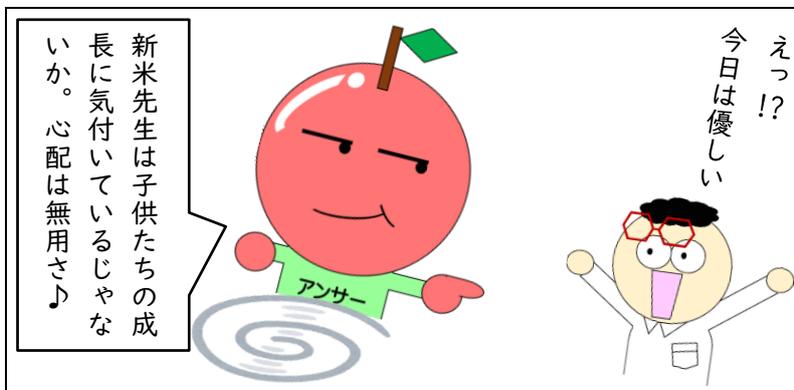
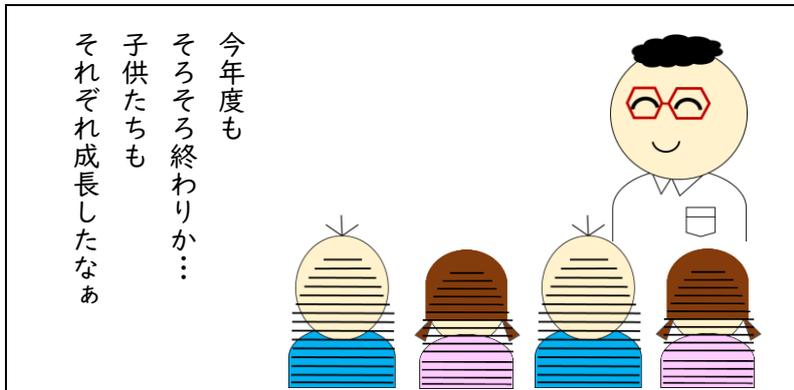
よく一緒に読まれている Q

Q12 「『明日の自立活動の授業、どうしよう…』という日々です。計画的に指導するにはどうしたらよいですか？」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいのか不安です…」

[目次に戻る](#)

Q28. 個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。



目標に対する達成度を評価する

- 日々の指導記録から短期目標の評価をします。
- 短期目標の評価を踏まえて長期目標を評価していきます。

短期目標を具体的に立てることで、日々の指導のねらいが明確になり、評価の視点も明確になります。日々の評価を積み重ねて短期目標を評価し、さらにそれを積み重ねて長期目標を評価していきます。

また、評価は、どこまでできればよしとするかについて、数値や具体的な姿として明確に設定すること（評価基準の設定）が大切です。

【評価結果の記述例】

- 目標は達成できた。次の目標に進む。
- 向上は見られたが、目標達成にはもう少し時間が必要である。
- 予想していたよりも向上が見られなかった。
- 欠席等が多く、向上が見られなかった。

「評価基準」設定時の留意事項

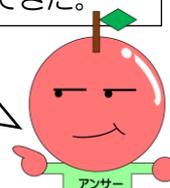
- ・ 指導過程の様子について記録し、様子の変化をデータ化する。
- ・ 課題をスモールステップ化し、どの段階まで達成できたかを指標とする。
- ・ 可能であれば数値化できるように工夫し、できた回数や量等を指標とする。

(例) **目 標** 自分の順番をいすに座って静かに待つことができる。

手立て 落ち着いて待つことができるように、待っている間に取り組む活動を準備したり、定期的に休憩の時間を取り入れたりする。

評 価 好きな本を読みながら、10分間静かに待つことができた。卒業式の練習では、10分おきに体を動かすことで、30分間、体育館で過ごすことができた。

「ほぼ」「だいたい」「あまり」「一応」等の曖昧な表現は避け、具体的に記述することが大事！



手立て・支援を評価

- 子供だけではなく、指導する側の手立てや支援についても評価しましょう。

つまずきがみられた場合、子供側の要因を考えることが少なくありません。もちろん、子供の状態像に目を向けることは大切ですが、同じくらい大切なのが、指導する側の指導を振り返ることです。評価をする際には、どちらか一方だけではなく、両方向からのアプローチが不可欠です。

指導の振り返りでは、

- 自分の考えた目標や指導・支援の手立てが適切であったか。
- 教師自身の特徴（話し方、教え方、教材の作り方・提示の仕方、教室環境の準備等）は子供に合っていたか。

を評価することで、より適切で効果的な指導・支援へと改善することができます。また、評価については、個別の指導計画の作成と同様に、複数の教員で評価したり、評価したものをみんなで確認したりすることが大切です。

【文献】海津亜希子（2017）：個別の指導計画 作成と評価ハンドブック。学研。
徳島県立総合教育センター（2008）：個別の指導計画を作成するために。
全国心身障害児福祉財団（2011）：新しい自立活動の実践ハンドブック。

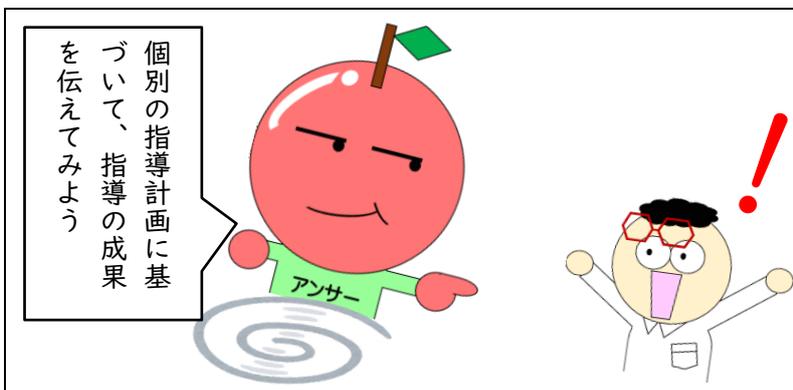
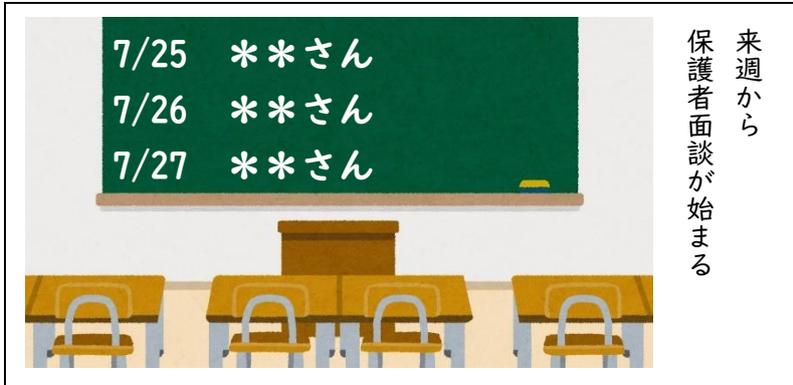
よく一緒に読まれているQ

Q16 「自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいか分かりません。」

Q25 「個別の指導計画の長期目標と短期目標を立てましたが、これでよいか不安です…。」

[目次に戻る](#)

Q29. 個別の指導計画の評価を保護者にどのように説明すればよいのでしょうか？



個別の指導計画の指導目標について丁寧に説明する

- 「なぜ、その指導目標を立てたのか」を説明します。
- 途中で指導目標や指導・支援の手立てを修正した場合、その理由も伝えます。

保護者面談では、子供の実態把握の結果を踏まえて、なぜその指導目標を立てたのかという根拠を分かりやすく説明することを心掛けましょう（計画の修正時も同様です）。それによって、学級担任が日頃から子供のことをよく観察していることが伝わり、指導目標に対する保護者の納得感も高まります。

また、面談の場だけではなく、保護者による登下校時の送迎の際や連絡帳、学級通信等、様々な機会を活用して、指導の経過について話題にすることが大切です。

肯定的な評価を伝える

- 保護者が子供の成長を感じられるよう、できるだけ肯定的な評価を伝えるようにします。
- 子供の課題については具体的にポイントを絞って説明します。そして、今指導していることや、これから指導したいと考えていることについて伝えましょう。

個別の指導計画の指導目標の達成状況について、できるだけ肯定的な視点で評価したことを保護者に伝えましょう。

評価の肯定的な視点（例）

- 以前はできなかったけれども、教師の支援があればできるようになったこと
- 教師の支援がなくても、自分でできるようになったこと
- 以前よりもよくできるようになったこと（正確性、頻度、継続性等）

これらは、いずれも、過去の子供個人（自分自身）と比較する個人内評価の視点です。このような視点で評価することが難しい場合、指導目標が子供の実態に合っていない可能性がありますので、すぐに指導目標の見直しを行いましょう。

また、指導目標には設定されていないものの、学校生活において課題になっていることは少なからずあるかと思います。それらについては、長々と説明するのではなく、具体的にポイントを絞って説明します。例えば、1～2つ程度エピソードを紹介した上で、課題となっている行動等の背景要因に関する見解を伝えます。そして、指導の方針を共通理解しておくことが重要です。

【文献】半澤嘉博 編著（2019）：中学校 学級担任のためのよくわかるインクルーシブ教育 課題解決 Q&A. 開隆堂。

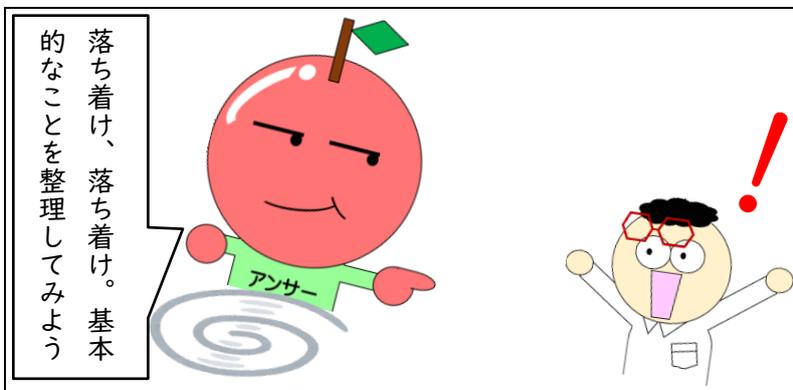
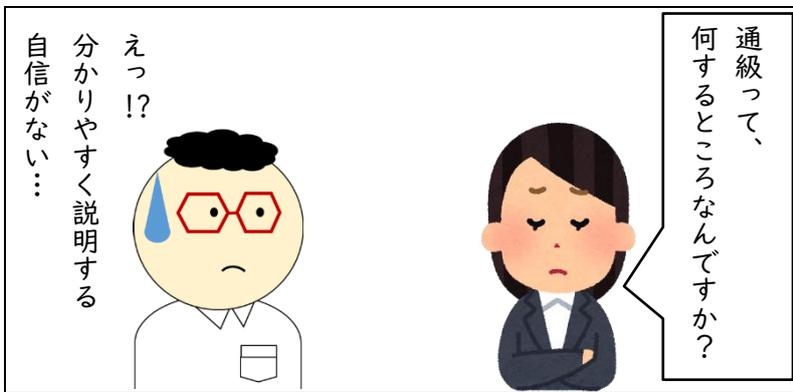
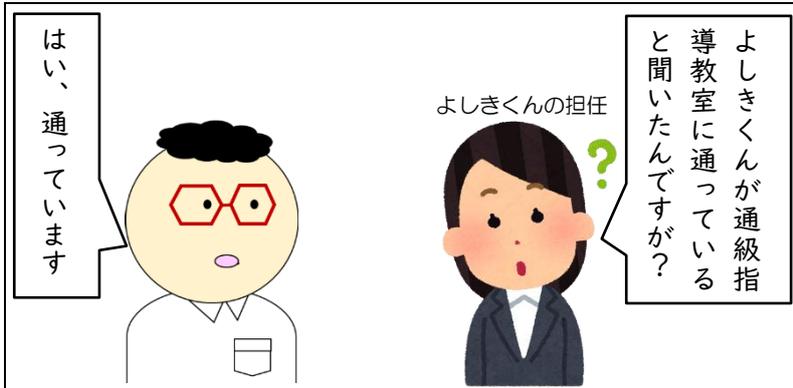
よく一緒に読まれている Q

- Q3 「各授業で1時間の具体的なねらいや課題の難易度をうまく設定できません。」
- Q16 「自立活動の指導の評価は、どのように書いたらよいか分かりません。」
- Q28 「個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…。」

[目次に戻る](#)

Q30. 通級指導教室ってどんなところですか？

※新米先生は通級指導教室を担当している



通級による指導とは

通級による指導とは、小・中学校等の通常の学級に在籍している児童生徒のうち、通常の学級で受ける各教科等の指導の他に、学習場面や生活場面で生じる困難を改善・克服するために、障害に応じた特別の指導を通級指導教室といった特別な指導の場で行う教育形態です。

形態

- ・ 自校通級：自校の通級指導教室に通う
- ・ 他校通級：他校に設置された通級指導教室に通う
- ・ 巡回指導：教員が対象児童生徒の学校を訪問して行う

対象者

通級による指導の対象となる障害やその程度については、法律や文部科学省からの通知等に示されています。

- ①言語障害者
- ②自閉症者
- ③情緒障害者
- ④弱視者
- ⑤難聴者
- ⑥学習障害者
- ⑦注意欠陥多動性障害者
- ⑧その他障害のある者で、特別の教育課程による教育を行うことが適当なもの（肢体不自由、病弱及び身体虚弱）

指導内容

通級指導教室で行われる特別の指導は、障害に応じた特別の指導として自立活動（「第3章資料編 2. 自立活動の指導内容例」参照）を参考に行います。特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら行うことができます。ただし、学習の遅れを取り戻したり、予習・復習の目的で各教科等の学習を取り扱ったりすることは認められていません。

通級による指導を受けるには

□ 本人や保護者の意向を大切にしましょう。

通級による指導の対象となる児童生徒の判断や手続きは、通学している学校がある教育委員会によって決められています。通級による指導の必要性を検討する際は、本人や保護者の意向を踏まえて校内委員会等で検討することが大切です。

通級指導を初めて受ける子供の中には、初めての場所や知らない人と会うことが苦手な子供もいます。通級指導でどのようなことを学ぶのかを子供自身が理解することが、効果的な指導につながります。小学校低学年の子供は、自分の苦手なことや困難さに気付いていないこともあります。そこで、通級指導教室が「楽しい」「居心地がよい」等と前向きな気持ちで受け止めることができるよう工夫します。高学年の子供の中には、できないことや失敗が積み重なって、不安を抱えている子供も少なくありません。そのため、できない自分だけでなく、得意なことや興味のあることにも目を向けたり、「～～はできないけど、〇〇があれば△△まではできる」と、できることを増やしたりすることで自分をより理解することができます。

【文献】調布市特別支援教育研究部会・山中ともえ 編著（2019）：特別支援教育サポート BOOKS「通級担当1年目からの疑問に答えるQ&A」, 明治図書出版。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 編著（2018）：小学校・中学校通常の学級のための手引書—通級による指導を通常の学級での指導に生かす—, シアース教育新社。

よく一緒に読まれている Q

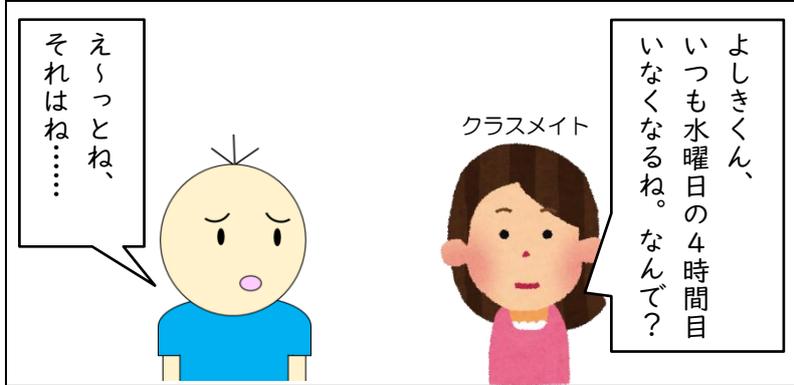
Q10「[自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？](#)」

Q13「[子供の苦手な活動に取り組むとき、参加意欲を高めるためにはどのような工夫をすればよいのでしょうか？](#)」

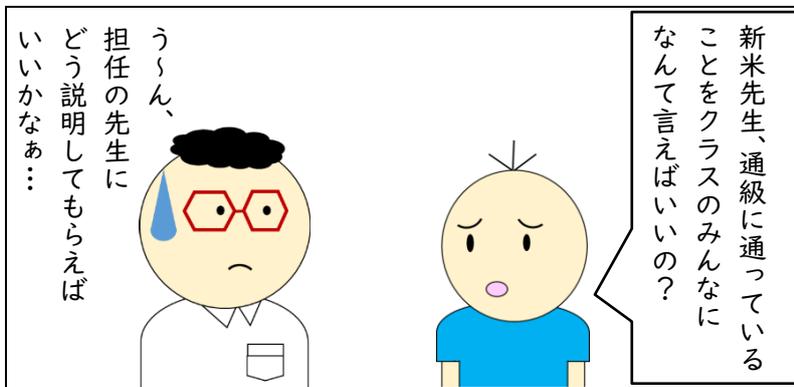
[目次に戻る](#)

Q3 | 通級指導教室のこと、周りの子供たちにどうやって説明すればよいのですか？

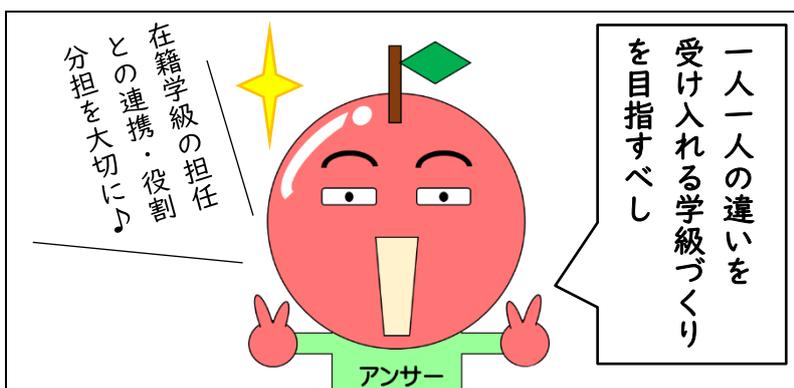
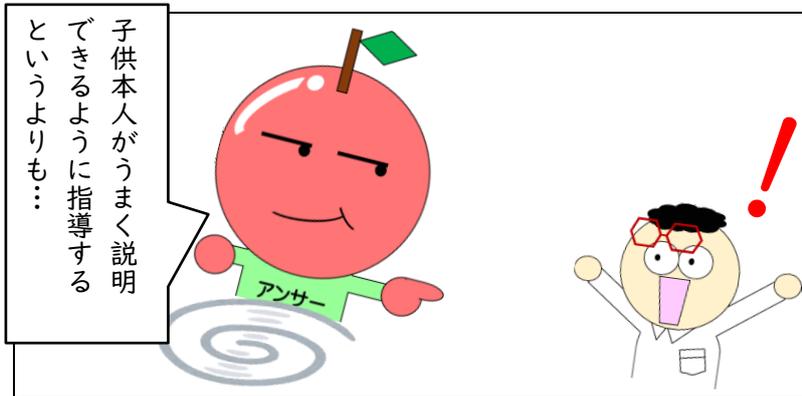
※新米先生は通級指導教室を担当している



在籍学級にて



通級指導教室にて



一人一人の違いを受け入れる学級づくりを目指す

- **通級指導教室で指導を受けることへの抵抗感が軽減するような環境をつくりましょう。**

通級指導教室に通っている子供は、通常の学級に在籍しており、ほとんどの時間をそこで過ごし、週のある時間だけ通級指導教室に通い、指導を受けます。そこで、通級指導教室に通うために、在籍学級を抜けることに抵抗感を感じないように、学級全体で応援するような雰囲気づくりが大切です。それには、学級担任の日頃の学級経営が大きく影響します。普段から、一人一人の違いを受け入れる学級づくりが重要です。

通級担当者は、通級指導を受けている子供の行動の見方や対応の仕方等を学級担任に伝えていくことで、一人一人の違いを認め合い、相手を尊重する集団づくりのための一助となります。

周囲の理解を促す

- **本人・保護者の意向を確認した上で、学年や学級の実態に応じた伝え方を考えるようにしましょう。**

通級による指導を受けていることをどのように周囲に伝えていくか、子供が置かれている状況（発達段階や困難の状態含む）に応じて検討していくことが大切です。その上で、在籍学級の子供たちにどのように伝えていくのか、本人や保護者の意向（気持ち）を聞き、伝える内容や伝え方を検討していきます。

内 容

- 通級指導を受ける目的や具体的な内容
- 障害の特性
- 本人や保護者の願い

伝え方

- 担任が説明
- 通級指導担当教員が説明
- 本人が自分で説明
- 保護者が在籍学級において説明
- 保護者会の場で説明（担任、通級指導教室担当教員、保護者等）

【文献】調布市特別支援教育研究部会・山中ともえ 編著（2019）：特別支援教育サポート BOOKS「通級担当1年目からの疑問に答えるQ&A」, 明治図書出版。

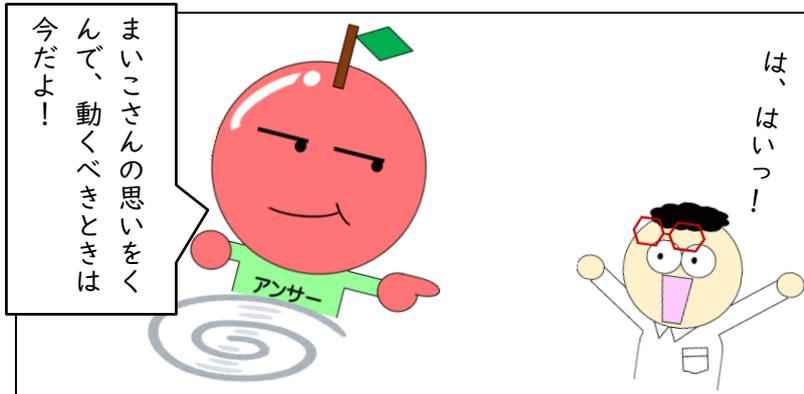
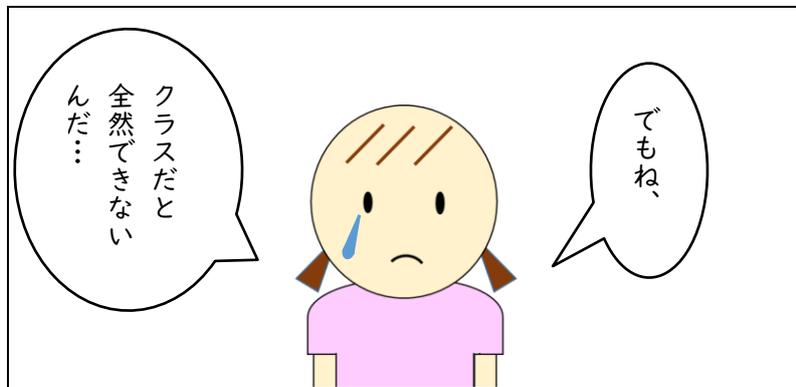
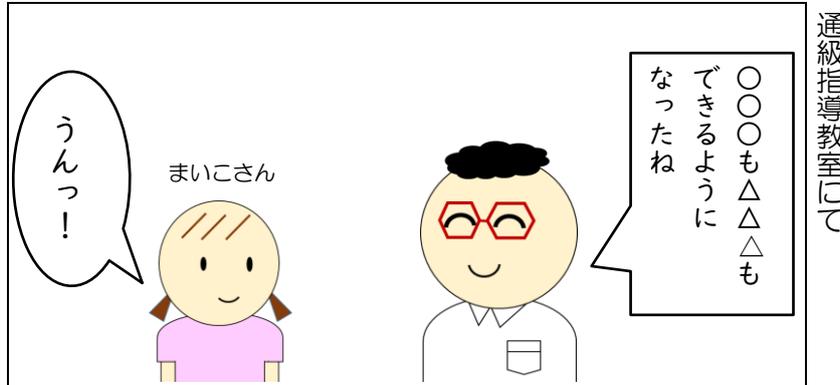
よく一緒に読まれている Q

- Q8 「[交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？](#)」
- Q32 「[通級指導教室での指導を在籍学級でどう生かせばよいのでしょうか？](#)」

[目次に戻る](#)

Q32. 通級指導教室での指導を在籍学級でどう生かせばよいのでしょうか？

※新米先生は通級指導教室を担当している



在籍学級担任との連携を進める

□ 目的に応じて、在籍学級担任との情報交換や情報共有の方法を工夫します。

通級指導教室では、その子にとって必要な様々なスキル等を身に付け、在籍校（在籍学級）での適応向上を目指しています。そして、そのためには通級担当者と在籍学級担任が子供のつまずきの場面や成長を共通理解していくことが欠かせません。しかし、日常の業務に追われ、情報交換や情報共有の時間がなかなか取れないのも現実です。そこで、目的に応じて、情報交換・情報共有の仕方を工夫してみましょう。

連絡帳

通級指導教室での学習活動や子供の様子（頑張っていること、困っていることなど）が書かれており、日常的な情報交換としては取り組みやすく効果的です。通級指導教室でできるようになったことが分かりやすく、また、通級指導教室での頑張りや学級担任がほめる機会にもなり、学習意欲の向上につながります。

のびのび 小学校 連絡ノート		
〇月 〇日 (〇)	〇時間目	名前 ナイセ
きょうの べんぎょう		
あいさつ		シール
1	詩をよむ。	◎
2	わからない ことばを「じてん」でしらべる。	○
3	詩をよんで、「かんそうカード」をえらぶ。	◎
4	かんそうを かいて、はなす。	◎
あいさつ		
ふりかえり		
かんそうをいうことができました。カードがあってよかったです。		
通級の先生から カードを選ぶとき、よく考えていましたね。 かんそうをいう時の声も◎	担任の先生から 	おうちの人から かんそうを言えたこと、うれしそうに教えてくれました。私もうれしくなりました。

※独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2018）より引用

在籍校訪問

通級担当者が、対象の子供の在籍学級を訪問し、授業の様子を観察したり、学級担任と情報交換したりすることにより、通級指導教室では見られない姿を知る機会となります。また、その後、懇談する時間を設けることにより、学級担任と一緒に子供のつまずきの背景を分析したり、支援の方向性の確認をしたりする機会となり、より効果的に支援を行うことができます。

在籍校訪問は、個別の指導計画を確認する時期（例：年度当初）や評価する時期（例：学期末、学年末）に行うことで、指導の方向性の確認や、子供の変容による指導の評価、次の目標設定と手立ての検討を一緒に行うことができ、効果的です。

通級指導教室訪問

在籍学級担任が、対象の子供の通級指導教室を訪問し、個別又は小集団での自立活動等の指導の様子を参観することで、学級では見られない児童生徒の様子を知ることができます。そこから、集団での活動の課題や指導のヒントを見つけることができるかもしれません。

【文献】調布市特別支援教育研究部会・山中ともえ 編著（2019）：特別支援教育サポート BOOKS「通級担当1年目からの疑問に答える Q&A」, 明治図書出版。
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 編著（2018）：小学校・中学校通常の学級のための手引書—通級による指導を通常の学級での指導に生かす—, シアース教育新社。
 佐藤慎二 編著・大山恭子 著（2020）：今日からできる！発達障害通級指導教室, シアース教育新社。
 田中裕一 監修・全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 編（2019）：新版「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック, 東洋館出版社。

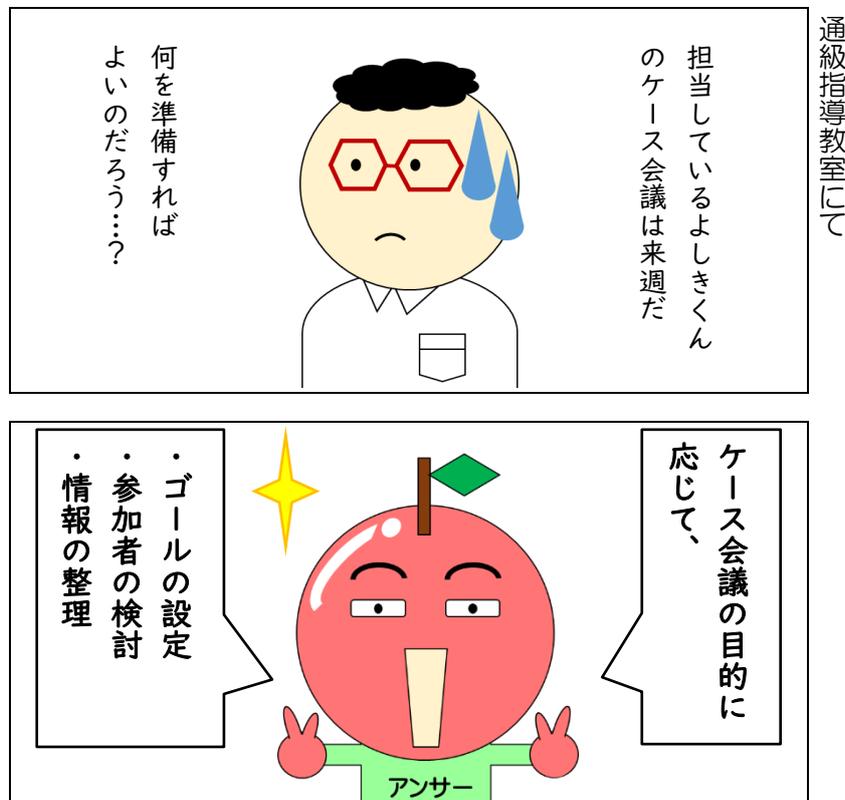
よく一緒に読まれている Q

- Q31 [「通級指導教室のこと、周りの子供たちにどうやって説明すればよいですか？」](#)
- Q33 [「ケース会議を開くことになりました。何を準備すればよいですか？」](#)

目次に戻る

Q33. ケース会議を開くことになりました。何を準備すればよいのですか？

※新米先生は通級指導教室を担当している



ケース会議の目的に応じたゴールを設定する

ケース会議は、「事例検討会」や「ケースカンファレンス」とも言われ、解決すべき問題や課題のある事例（事象）を個別に深く検討することによって、その状況の理解を深め対応策を考える方法です。学級担任が一人で支援を行うだけでなく、関係する教職員、関係機関等がチームを組み、役割分担をすることで、支援の充実を図ることができます。

ケース会議を行うに当たり、その目的を明確にし、ゴールを設定することが大切です。対象となる子供のアセスメント（見立て）やプランニング（手立て、ケースに応じた目標と計画を立てること）、支援方針の継続・改善の検討等、その目的に応じてゴールは異なります。例えば、支援方針を決定することを目的としているケース会議であるにもかかわらず、事例の状況報告のみに留まり、具体的な支援方針が決定しなければ、必要な参加者が集まってケース会議を行う意味がありません。決められた時間内で、ケース会議の目的を達成するために、事前に参加者が目的について理解しておくことが大切です。

また、当日の参加者や進行等について、あらかじめ特別支援教育コーディネーターと打合せをしておくことも効果的に進めるためのよい手立てとなります。

目的に応じて参加者を決める

ケース会議は、定期的に行う場合と、臨時的に行う場合があります。定期的に行う場合は、目的（例：実態把握や目標、指導内容、方法、評価等の情報共有等）や時期（例：年度初め、年度終わり、長期休業中等）、回数（例：年1～2回）、時間（例：30～60分）があらかじめ決まっているため、関係者が集まりやすいです。しかし、臨時的に行う場合は必要に応じて行われるため、関係者全員が集まれる時間を合わせるだけでかなりの労力を費やしてしまい、関係者が一堂に会するというのは容易ではありません。ケース会議を行う目的に応じて必要な方々を招集することが支援の即時性を保つことにつながります。

定期的に行う場合

- 4月：（目的）実態把握、目標（長期、短期）、手立て、合理的配慮、評価の基準の確認
（参加者）特別支援教育コーディネーター、管理職、担任、養護教諭、通級担当者
- 夏休み：（目的）指導の経過、対象児童生徒の変容、指導目標等の検討
（参加者）特別支援教育コーディネーター、担任、通級担当者
- 年度末：（目的）評価、次年度の目標等の確認
（参加者）特別支援教育コーディネーター、管理職、担任、養護教諭、通級担当者

臨時的に行う場合

- 時期：児童生徒の気になる行動や不応問題が起きたとき
参加者：特別支援教育コーディネーター、担任、同学年の教員、養護教諭、管理職、通級担当者

参加者には、発達段階や状況等に応じて本人や保護者が参加することもあります。また、支援は長期的な視点に立つて行うことから、1回で終わるのではなく、定期的、継続的に行っていくことが望ましいです。ケース会議の目的によって、参加者の構成を検討していきましょう。

事前に目的に応じた情報整理を行っておく

ケース会議の目的に応じて、事前に情報の整理をすることで、決められた時間内でゴールにたどり着くことが可能となります。目的に応じて、以下のような情報を事前に整理し、準備を進めましょう。

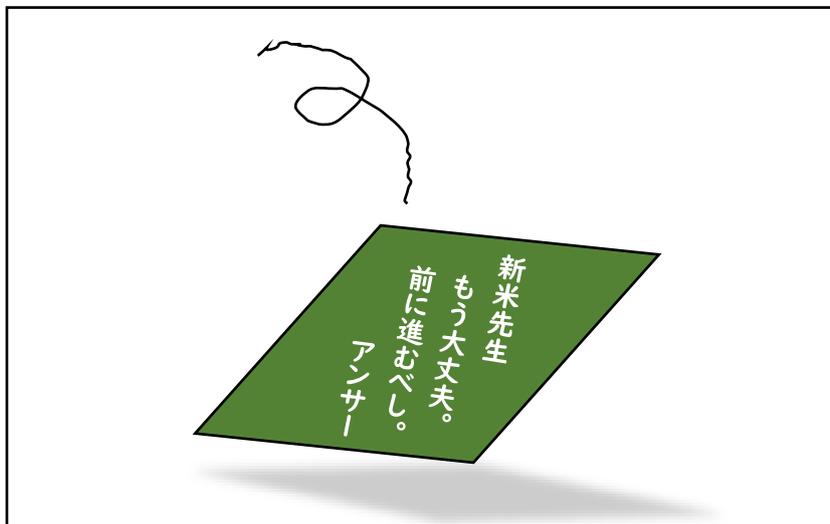
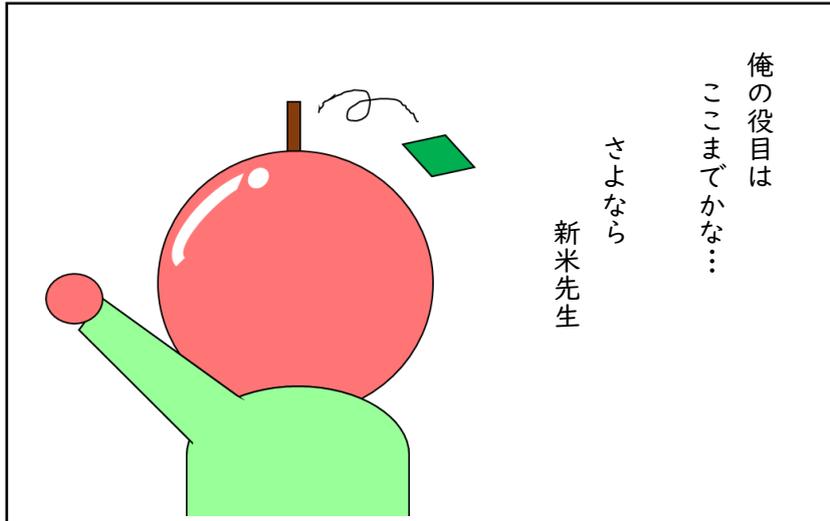
- 保護者や学校、在籍学級が感じている、通級指導の効果や通級指導に求めていること
- 本人の通級指導に対する思い
- 通級指導の現状
 - 障害の特性 学習上や生活上の困難 現在の指導目標、指導内容、指導方法
 - 通級指導でできるようになったこと 上手くいった指導 子供が苦戦していること
 - 通級指導と連携して行っている在籍学級における指導 等
- 通級担当者が把握できる範囲の、学級集団の実態、在籍学級の様子や友人関係 等

【文献】独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 編著（2018）：小学校・中学校通常の学級のための手引書—通級による指導を通常の学級での指導に生かす—。ジヤース教育新社。
文部科学省（2010）：生徒指導提要。
文部科学省（2020）：初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド。

よく一緒に読まれている Q

- Q23 「個別の指導計画は、複数の教員で作成したほうがよいと思いますが、なかなか時間の確保が難しいです…」
Q28 「個別の指導計画の評価がこれでよいのか不安です…」

[目次に戻る](#)



研究体制

◎全体統括 ○研究担当

令和2年度	令和3年度
◎矢野 久光（特別支援教育課長） 橋本美樹子（特別支援教育課 指導主事） 甲田真希子（特別支援教育課 指導主事） ○森山 貴史（特別支援教育課 指導主事） 高橋 妹子（特別支援教育課 指導主事） 辻村 義樹（特別支援教育課 指導主事）	◎矢野 久光（特別支援教育課長） ○森山 貴史（特別支援教育課 指導主事） 高橋 妹子（特別支援教育課 指導主事） 辻村 義樹（特別支援教育課 指導主事） 高坂 正人（特別支援教育課 指導主事） 藤川 くみ（特別支援教育課 指導主事）
※実態調査の分析や執筆作業を行った。	※内容の修正や編集作業を行った。
【研究協力】 弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 氏 青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室	

青森県総合学校教育センター特別支援教育課研究（令和元年度～令和3年度）
 研究成果物

時々サクッと読み返したくなる！

特別支援学級・通級指導教室の授業づくりに役立つQ&A

令和4年1月 第1版

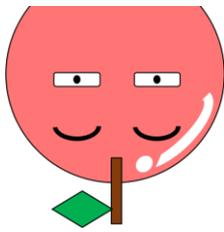
著作 青森県総合学校教育センター
 特別支援教育課
 発行 青森県総合学校教育センター
 特別支援教育課

〒030-0123

青森県青森市大字大矢沢字野田 80-2

TEL: 017-764-1993

FAX: 017-764-1992



It'll be fine.

